

# IV 地区別計画

## 1. 地区別計画の意義

地区別計画は、各地区の地域づくりの指針となるものであり、住民自治による地域独自の計画です。

飯豊町の地区別計画は、全国に先駆けて、第3次総合計画において、地区別土地利用計画を柱として初めて策定され、総合計画の一つの柱として位置付け、第5次総合計画にも受け継がれてきています。

飯豊町の住民参加のまちづくりを支える大きな土台でもあります。

地域には、それぞれの歴史、個性や特徴があります。その良さを生かし、次世代につなげ個性的で活力ある地域をつくるため、住民が自らの地区のことを自らで考え、そして、地域内での合意形成を図りながら地域づくりを進めていくことが求められています。

行政や多様な主体、団体と連携しながら、地域が主体的に事業を推進していくことが期待されます。

## 2. 地区別計画の内容と進め方

地区別計画は、地区の将来像や方向性、将来に向けた重点事業、より詳細なアクションプラン、地区間連携、土地利用計画の方針等の概要を示しています。これらの内容は第3次・第4次総合計画からの地区別計画の継承している内容と新たな取り組みからなります。

将来に向けた重点事業は、地域が中心となって活動組織をつくり、重点的に地区の総力をあげて進めていくことが基本ですが、一方で、行政や関連団体との連携も不可欠です。町の重点プロジェクトや基本計画と連動した取り組みも期待されます。

アクションプランは、今後10年間に於いて地区住民それぞれが関わり、地区の魅力づくりのための具体的な行動計画を示しています。

今回新たに取り入れた地区間連携事業は、まちづくりセンターを拠点に関係する地区が連携することでより魅力的な環境づくり、景観づくり、人づくりに貢献することが期待できる事業です。

土地利用計画に関しては、第3次総合計画での地区別計画で丹念な土地利用計画図を作成し、今日までそれをベースとした土地利用が進められてきました。誰もが安心して豊かに生活するための基盤として、舞台として、飯豊町の田園環境と景観を持続的に維持していく、土地利用の基本的方針は各地区とも変わっていないと思います。その上で、これからの時代に対応した土地利用計画の進め方の基本的考え方や構想が、地区別土地利用計画の方針として表現されています。今後10年間でより充実した地区別土地利用計画づくりを進められることが期待されます。

## 中 地 区

### ～ 3世代が暮らしやすい地域づくり ～

#### 【2030年の将来像】

中地区を代表する景観である「田園散居集落」は農村の営みのなかで長い間、守り育て・受け継がれた貴重な景観財産です。その歴史と誇りある伝統文化、そして人と人の絆を次世代へと継承し、自主防災組織体制を機能させ、安心して3世代が暮らしやすい地域をつくりまします。



#### 【地区の概要データ】

(令和2年4月1日時点)

人口 男450・女439 計889 世帯数272 集落数6 高齢化率34%

#### 【現状と課題】

- ・少子高齢化が顕著であり、単身高齢及び高齢者のみの世帯が増加。高齢者は運転免許返納後の交通手段がない。
- ・冬期間の雪対策や、ハザードマップの活用、集落ごとの自主防災組織体制の連携が必要となってきた。
- ・若者については地区外で働くものが多く、基幹産業である農業の後継者が不足しつつある。
- ・徐々に増加している「空家」は今後重要な課題となっている反面、地域内に地域住民が集える拠点としての活用が課題となっている。
- ・子どもたちの「遊び方」も様変わりするなか、防犯を含め安心して遊べる遊び場が少ない。

#### 【地区の資源・宝物】

昔ながら受け継がれている文化、祭りや建造物が多数存在しており、雄大な自然、美しい風景は心和ます財産といえる。

天養寺観音堂、散居集落風景、中村原、若宮八幡神社、土壇、中獅子踊り、八幡堂神社、豊中稲荷神社、ホトケヤマ、水道発祥の地、酒造会社、天然のコブシ

伝統的な食文化、季節行事、わらべうた、方言、郷土誌「ででぼっぼ」、高齢者の知恵

#### 【地区の将来像を実現するための重点事業】

事業概要	第4次総合計画との関係	地区の役割	行政の役割	場所
集落ごとの自主防災組織体制の連携事業 (SDGs：11、13、17)	発展	中地区独自の訓練の実施	連絡体制構築とハザードマップを活用したハード事業	中全体
三世代で楽しめる憩いの場、サイクリングロード(歩道)づくり事業 (SDGs：3、4、5、11、16)	新規	定期的な環境整備町のモデルコース	中村原排水整備、安全確保(標識、ライン設置)	サイクリングロード 中村原周辺

雪問題への取り組み事業 (SDGs: 11、13、16、17)	発展	若宮除雪隊の 継承	除雪負担の軽減	中地区全体
酒造り文化を中心としたグルメ の発信事業 (SDGs: 8、11、12、15)	新規	直売所などの気軽 に集える場所の整備・Uターン者へ の情報提供	ふるさと納税の活 用、観光連携	若乃井酒造 周辺

## 【アクションプラン】

アクションプランのテーマ・内容	第4次 総合計画 との関係	実施時期	実施主体
1. 防災で安心な中地区	継続	令和3～7年度	中区協議会、各地区、 消防組織、民生委員
各地区で組織された自主防災組織を中区で集約させ連携機能させていく。 ハザードマップを活用して危険個所の整備を推進させていく。			
2. 中村原を憩いの場に	新規	令和3～7年度	中区協議会、体協 子ども育成会 青年会・消防 防犯・交通安全
中村夏祭りの発展 憩いの場づくり(サッカーゴールの設置・遊具の設置・広場の整備) 各地区対抗 レクリエーション大会の開催(住民の情報交流) サイクリングロードの提案(ゆり園～天養寺観音堂～ホトケ山～若乃井～中村原)			
3. 住民の絆を	継続	令和3～7年度	中区協議会、老人会 青年会・婦人会 新規実行委員会 民生委員
住民の情報共有(会報の充実) 独身者への仲人 Uターン者、Uターン者との交流 お年寄りの交流の場(ほのぼのサロンの充実) 交通手段のない人への援助(ワンコインカー)			
4. 田園散居集落の景観保全里山整備と山 桜の植樹	継続	令和3～7年度	中区協議会 環境保全組織 子ども育成会 ホテル部会
天養寺観音堂周辺、ホトケ山展望台、農村公園、若宮八幡神社(社叢)を保全し、後世に引き継ぐ取組み (ホトケ山展望台の草刈り、農村公園の整備)、観光案内看板の設置 ホテルを復活させよう(生育調査、先進地視察、ホテルマップの見直し、PR活動、周辺整備) ガイド、観光案内人の配置とNPO法人運営 保全屋敷林の地区指定に向けた活動への協力			

5. 雪問題の取り組み	継続	令和3～7年度	中区協議会 若宮除雪隊 民生委員
若宮除雪隊の継承 オペレーターの育成			
6. “農”で作る“生きがい”を	新規	令和8～12年度	中区協議会 農業法人・農業組織
農のある暮らし、畑で取れた作物の活用(年寄りの生きがい・食文化の継承) 水を利用した作物で特産品づくり(クレソン、セリ、ワサビ等) 農業法人が運営する直売所の整備			
7. 酒造り文化を中心としたグルメの発信	新規	令和8～12年度	中区協議会 酒造会社 農業組織
酒造会社周辺に直売所やカフェ(気軽に集える場所・Iターン者への情報提供) 酒造り文化を県内外へ発信し、地域が潤う仕組みづくり 名産品とのコラボ商品開発(酒粕商品・アスパラ等セット商品、ふるさと納税の活用)			

**【地区間連携事業】**

事業概要	連携地区	当該地区の役割
サイクリングロードの提案 (ゆり園～天養寺観音堂～ホトケ山～若乃井～中村原)	萩生地区、 黒沢地区等	連携事業の開催 レンタサイクルの活用、 マップ作成
ホテルの生育調査、先進地視察、ホテルマップの見直し、PR活動、周辺整備	手ノ子地区等	先進地視察、連携事業の 開催

**【地区の土地利用の基本的な考え方】**

中地区は田園の中に家々が点在しており、家屋の北西側には杉の屋敷林が植えられています。この屋敷林は、夏の強い日差しを遮り、冬の厳しい北西風を防ぐために植えられました。枝は燃料となり、大木となった杉の木は、家屋の材木に使われました。先代たちは、北国の厳しい環境の中で、知恵を働かせ、きわめて合理的でエコな生活をしていました。

また、朝日連峰を水源とする清水は農業に適し、山王原では藩政時代から開拓が進められるなど野川より取水する水路整備が進められました。先代の想いは総合開拓パイロット事業へ受け継がれ、近代農業の確立と地域農業を発展させました。

近年、生活の多様化が進む中、先代から受け継がれている文化・祭りや建造物を将来にわたり守り継承させなければなりません。農のある暮らしを子ども達に伝え、田園散居集落を守るために他地区とも連携し行政と協同で環境保全と伝統文化の継承に取り組んでいきます。そのためには土地利用計画による保全が必要です。

【土地利用ゾーニング】



## 萩生地区

### 最先端科学技術・産業と調和する伝統と景観のまち

#### 【2030年の将来像】

- ① 地域コミュニティが活性化し、和やかな活気ある地域
- ② 最先端科学技術が地域に溶け込み、子どもの未来を育む地域
- ③ 歴史と伝統と文化・屋敷林のある田園散居村を育む地域



#### 【地区の概要データ】

(令和2年4月1日時点)

人口 男776・女811 計1,587 世帯数531 集落数8 高齢化率31%

#### 【現状と課題】

1. 「地域コミュニティ」・「世代間交流」の活性化(誰もが暮らしやすい環境づくり)
2. 人口減少、少子・高齢化対策
3. 新たな定住人口増に資する住環境整備
4. 町内利用を促進する商業施設の活性化
5. 萩生城址公園周辺環境整備の再検証
6. 全集落の自主防災会の更なる機能強化

#### 【地区の資源・宝物】

小学校(子ども) 飯豊町起業支援施設 専門職大学 スロービレッジ エルベ 萩生駅  
 荒獅子まつり(神輿渡御行列) 子ども神輿祭り 萩生城址公園と桜 萩生石箱遺跡  
 神社・仏閣 どんでん平ゆり園と桜 屋敷林のある田園散居集落 萩生川(水源の溪流)  
 星空(天文台) 自然 水 空気 蛍 のどかさ お米 こくわ オカヒジキ  
 ひょう 炭焼き名人 地域の先生 隣組制度

#### 【地区の将来像を実現するための重点事業】

事業概要	第4次総合計画との関係	地区の役割	行政の役割
1. 計画されたプランの着実な実行を推進するプロジェクト(SDGs:17)	新規	実行組織として、以下の事業に関する部会等を設置する。	協議会の要請に応じて参加し、指導助言を行う。
2. 最先端科学技術・産業と専門職大学を核としたまちづくりプロジェクト(SDGs:4、7、8、9、11、17)	新規	企画に対し、関係者の賛同を得、会議を主催	

3. 商業施設の在り方に関するプロジェクト (SDGs:8、10、11、12)	発展	企画に対し、関係者の賛同を得、会議を主催	協議会の要請に応じて参加し、指導助言を行う。
4. 宅地分譲地・集合住宅建設に関する開発促進プロジェクト (SDGs:11、12)	新規	土地所有者と協議し土地利用計画(構想)に基づき協議	
5. 歴史・伝統・文化や観光を重視した環境整備と歴史探索プロジェクト (SDGs:1、2、3、4、11、15)	発展	部会にて計画を検証、練り直し、歴史も探る	
6. 道路に関する要望強化推進プロジェクト (SDGs:10、11)	新規	改善が見えない事項に付き、協議会から要望書の提出を模索	
7. 小規模集落の機能強化促進プロジェクト (SDGs:3、11)	新規	二集落の自主防災組織設立に向け協議会で支援	

【アクションプラン】

アクションプランのテーマ・内容	第4次総合計画との関係	実施時期	実施主体
1. 最優先 計画されたプランの着実な実行を図る、推進組織体制の確立 (SDGs:17)	新規	令和3～7年度 (重点時期3～5年度)	萩生区協議会
計画に上がったプランは、今後の萩生地区を描いたもの。地区民や関係団体が協力して推進組織を運営する ・実行組織として、以下の事業に部会等を組織して展開			
2. デンソー山形・飯豊町起業支援施設・専門職大学を見据えたまちづくり (SDGs:7、8、9、11、17)	新規	令和3～7年度 (重点時期3～5年度)	萩生区協議会
企業、飯豊町起業支援施設、専門職大学の存在は、雇用を生み住みやすいまちとなる。「子ども達の未来に繋ぐ教育」を地域・企業・大学・行政が連携し推進する。 ・専門職大学を想定した住環境整備(空き家利用のシェアハウス、高齢者と学生の協働生活) ・地域が率先し、防災用蓄電池を家庭や企業にモニターとして活用できないか提案。			
3. 地域住民が願う商業施設等の在り方検討 (SDGs:10、11、12)	発展	令和3～7年度	萩生区協議会
商業施設の活性化の為、住民(特に女性の声)と事業者の協議の場を設け、今後の在り方を検討。 ・デンソー山形・飯豊町起業支援施設・専門職大学を視野に入れる。 ・地元食材を加工し商品化をめざす。 ・通信設備のあるコインランドリー併設			
4. 人口減少ストップのもとに、宅地分譲地や集合住宅建設の開発促進を目指す (SDGs:4、9、11、12)	新規	令和3～7年度 (重点時期3～5年度)	萩生区協議会
土地利用計画(構想)を策定し、居住・商業・工業・農業・学園等のゾーニングを想定する。 ・萩生の農村景観が損なわれない秩序ある開発 ・新たな分譲住宅団地や集合住宅建設にあたっては、可能な限り民間のフリー開発を推進する。			
5. 歴史、伝統、文化(城址公園・石箱遺跡・神社・仏閣)や観光(ゆり園・散居集落)を重視した環境整備 (SDGs:4、11、12、15)	発展	令和3～12年度	萩生区協議会
第4次総合計画で地区住民総意のもとで計画した萩生城址周辺環境整備、再検証しながら要望活動を行う。 ・萩生の歴史を辿りながら地域を知る調査を行い記録に残す。それを環境整備に生かす。 ・神輿渡御行列や荒獅子祭り、子ども神輿祭り等、神社・仏閣を含め観光面でも大きくPRする。 ・萩生の宝である「ゆり園」その周辺に、春から秋まで花を咲かせオールシーズン利用出来る施設にし、直売や地元食材を加工した商品を販売する。			

6. 主要地方道・県道・町道等の整備要望活動を強化推進 (SDGs : 1、10、11)	新規	令和3～12年度	萩生区協議会
重要なライフラインである地域内道路の要整備箇所について、地域づくり座談会はもとより関係諸団体と調整しながら、所轄官庁に対し要望活動を積極的に展開するとともに早期実現を図る。 ・通学路の歩道整備と防雪柵、道路改良、信号設置等			
7. 存続が危ぶまれる小規模集落、持続可能を旗にあらゆる知恵を出し合い地域を守る (SDGs : 3、11)	新規	令和3～7年度	萩生区協議会
世帯数の減少や人口減少、そして高齢化率が高い。その改善策の糸口を見つけるため、総合的な観点から調査し研究を進める。 ・自主防災未組織地域に対し、組織化に向けて積極的な支援をする ・全地域に自主防災組織が確立したら、行政機関の協力を得て萩生地区防災訓練を行う			
以降のアクションプランは、中部地区まちづくりセンター内に設ける「まちづくり委員」(専門部会)が企画運営を行う。			
8. 地場産業の活性化を図り、雇用の拡充を目指す (SDGs : 2、6、7、8、9、12)	発展	令和3～12年度	萩生区協議会 まちづくりセンター 中部3地区共通
農業・林業・畜産業・商業・建設業・工業・介護施設等の活性化を図るため関係者の皆さんに雇用の拡大の方策を探る。身近な場所から、新鮮で、より安価な農産物を得ることができる地産地消。さらに発展させる。			
9. 美しいまちを醸し出す農村景観を維持し、おもてなしの見える、暮らしやすい地域づくり (SDGs : 2、4、8)	発展	令和3～12年度	萩生区協議会 まちづくりセンター 中部3地区共通
地域コミュニティ、SNS等々を活用し、豊かな人と人との支え合いの和を大切にします。 ・郷土料理の継承を通して、他所からくる人々におもてなしの見えるまちづくり ・美しく新鮮で、より安価な農産物を得ることができる地産地消を更に発展			
10. 高齢者の培った技術を伝承し、高齢者によりそうまちづくり (SDGs : 1、5、10、11)	発展	令和3～12年度	萩生区協議会 まちづくりセンター 中部3地区共通
高齢者だけの世帯や高齢者の一人世帯が多くなり、暮らしをとおして悩みや不安を抱える高齢者が多くなっている。そこに対応していくためにどんな施策が必要か調査し、行政に提案します。 ・除雪や移動支援・独り住まい・災害時の対応・子どもとの交流(昔語り、郷土料理、藁細工) ・隣近所のコミュニティを活性化・低家賃で住める高齢者集合住宅や高齢者シェアハウス、高齢者と若者の共同生活等の調査・研究を進める			
11. 農業や林業、園芸に従事する後継者育成を目指す (SDGs : 6、8、9、12)	新規	令和3～12年度	萩生区協議会 まちづくりセンター 中部3地区共通
耕作放棄地及び休耕田、山林の荒廃が増加し、農林業の多面的機能が失われつつあります。そのため子どもたちが希望を持てる農業の姿を描き実践すると共に、後継者の育成に資するAIやITの活用を研究する組織を確立します。 ・都市住民との交流(米作り体験や園芸体験ができる農園を確立) ・地場産農産物として増量を図るとともに、品質管理や販路拡大の方策、また6次産業化Iターン及びUターン者を積極的に受け入れる			
12. 毎日が安心して暮らせる地域コミュニティの醸成と、互助活動の積極的推進 (SDGs : 1、10)	新規	令和3～12年度	萩生区協議会 まちづくりセンター 中部3地区共通
コミュニティが希薄になっている今日、改めて隣近所からコミュニティを形成し、「誰ひとり取り残さない」を基本におき、お互いに気軽に声を掛け合いそして助け合い、安心して暮らせるまちを目指す ・子ども達や高齢者が困っている場面に遭遇した時は、躊躇なく手助けできる気運を醸成する			



13. 「結婚を希望する人たち」支援の輪を広げる (SDGs: 1、10)	新規	令和3~12年度	萩生区協議会 まちづくりセンター 中部3地区共通
結婚を希望する若年層や中年層が大勢存在する。地域、企業、行政と連携しサポート体制を確立する(人口減少問題に寄与し、地域の賑わいづくりへ) ・仲人役を組織化 ・地域の独身層への声掛け			
14. 他所から人を呼び込み、誰もが子育てしやすいまちを目指す (SDGs: 3、4、5)	新規	令和3~12年度	萩生区協議会 まちづくりセンター 中部3地区共通
若者が定住できるまちづくりについて、若者と意見交換する場を設け、誰もが子育てしやすいまち実現に向けて調整し、提案する ・年齢を問わず交流できる環境づくりを進める ・子ども達が、安全・安心に遊べる遊び場について地区内を調査・設置の要望活動 ・無医療地区の解消 ・今までの企業・大学交流で出された提案の検証			

【地区間連携事業】

事業概要	連携地区	当該地区の役割
ゆり園周辺に、多くの桜を植栽するとともに、近隣地区と協力しあいながら桜回廊づくりを目指し、更に桜サイクリングロードで3地区をつなぐ。 (SDGs: 4、11、16)	萩生地区 中地区 黒沢地区	
屋敷林の維持保全に関し3地区及び関係団体、行政と協力し推進する。 (SDGs: 4、6、15)		
中津川発祥の水仙ロードを町内、全てでつなぐ。 (SDGs: 4、11、14、16)	町内全ての地区	

【地区の土地利用の基本的な考え方】

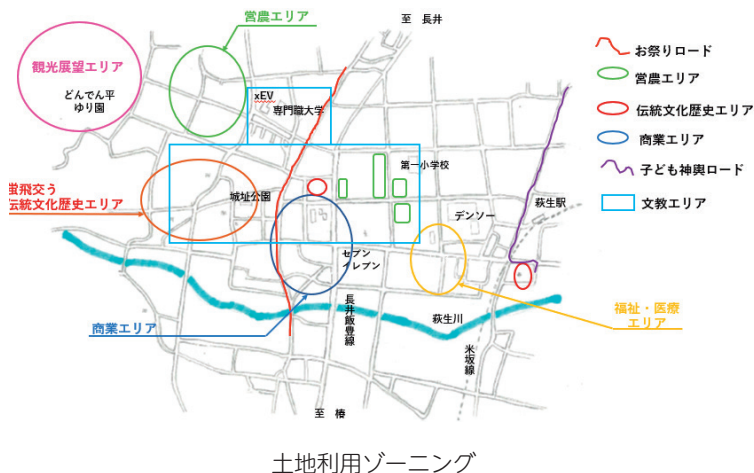
飯豊町は「日本一美しい日本の村景観コンテスト」で農林水産大臣賞を受けた集落。その北部に位置する萩生はその中でも屋敷林に囲まれた住居が点在する田園散居集落です。人口も町全体の25%を占め、スーパー・コンビニ・銀行・ホテル等が主要地方道沿いの中心地に集まっています。

最近、大型工場の規模拡大・飯豊町起業支援施設それに付随して専門職大学や集合住宅等が計画されて田園に囲まれた複合的でコンパクトな街になりつつあります。萩生は田園景観と文化を生かし、最先端科学技術と共存した地域を目指し、その為に保全・育成すべき田園・森林ゾーン、伝統・文化・歴史ゾーンを明確にし、伝統文化と田園風景を「将来の子ども達のため」継承していきます。

更に最先端科学技術と共存し、新しい田園文化と経済の創造と発展のための文教、交流・商業、産業、新規居住ゾーンを確定していきます。

以上の伝統文化・田園景観と調和し、新たな教育・産業・交流振興の融和した土地利用を地域住民の参加のもとに確定し、的確で公正な事業を行政との協働のもとに誘導し、計画的で民主的公正な土地利用を進めていきます。

また、萩生の人々が安心して快適に楽しく生活できる利便性・安全性・快適性のある施設配置、道づくり等の公共施設のネットワーク化を計画的に図ります。



## 黒沢地区

### 未来に繋がる種を蒔く

#### ～世代を越えて、としよりからおぼごまでおもしろい黒沢～

#### 【2030年の将来像】

子どもからお年寄りまで自然豊かな黒沢でいつまでも笑って暮らせる。

世代間でお互いの大変なところを支え合える、思いやりあふれる黒沢。



#### 【地区の概要データ】

(令和2年4月1日時点)

人口 男251・女263 計514 世帯数174 集落数9 高齢化率41%

#### 【現状と課題】

1. 人口減少問題による地域交流の衰退

→働き方などのライフスタイルの変化により、少子高齢化が顕著。結果としてにぎわいがなくなり空き家・商店の消滅。地域の衰退につながる。

2. 誇りある田園風景の維持困難

→農業を営む人も高齢化しており、農地維持管理の限界が近い。維持管理ができないと水害につながり、災害による地域資源の消失が懸念される。

#### 【地区の資源・宝物】

スワンパーク・叶で～る・高伝寺・西山・田んぼ・屋敷林・獅子舞・いきいきサロン・公民館のつどい・渡邊六郎兵衛家住宅長屋門

【山麓から地区の中心を流れ、白川に注ぐ萩生川。それを囲む田園環境】

#### 【地区の将来像を実現するための重点事業】

事業概要	地区の役割	行政の役割
黒沢研修センターを拠点とした各種事業の展開 【人との繋がり】	マルシェ、レク大会の実施など 事業展開	—

考古学講座の開催による黒沢の歴史の学びと宝 【伝統継承】	現地調査による 地域資源の発掘	学芸員の派遣
萩生川さくらロードの整備・西山の山道づくりからの里山保全 【環境保全】	西山の保全活 動・さくらロー ドの整備	保全活動への支 援

## 【アクションプラン】

アクションプランのテーマ・内容	実施時期	実施主体
1. 交流によるにぎわいづくり【人との繋がり】	令和3～12年度	地区協議会・ 体育協会
<p>年1回開催される黒沢レク大会で世代間の交流・地区ごとの交流は実施している状況である。しかし参加者が毎年ほぼ一緒など課題もある。焼き肉、夏のビアガーデン等、違うイベントも企画して様々な人が集まりやすいようにする。</p> <p>黒沢でのゲートボール大会・グラウンドゴルフ大会の実施継続により、多くの子どもからお年寄りまで参加できる交流事業を展開していく。</p> <p>家庭菜園をしている人が多く、近くの人におすそ分けしている方が大勢いる。そこで朝市(野菜マルシェ)を黒沢研修センター前で開催し、生産者と購買者の交流の場として活用し、にぎわいを復活させる(所得を得ることでの生きがいづくりにも繋がる)。</p>		
2. 助け合いによる安心で住みよい地域づくり【人との繋がり】	令和3～12年度	地区協議会・ 地区防災組織
<p>高齢者宅の除雪は地区にある機械で実施をしている状況である。</p> <p>近年は災害の発生回数・規模も大きくなっているので地域自主防災組織の設立を推進する。すでに設立している地域については、組織体制の見直し強化を図り、災害に備えた地域づくりを推進。</p>		
3. 伝統文化と行事の継承【伝統継承】	令和3～12年度	地区協議会
<p>第4次総合計画では獅子舞文化を次世代へ継続していくことを目標とした。</p> <p>第5次総合計画では伝承継承はもとより、映像での記録保存を実施する。(観光協会で実施済み、内容をより細かく)</p> <p>人口減少により伝統文化の継承が困難になっていることから、地区を統一した祭りのあり方の検証や、万が一途絶えた際に過去を基にすぐに再現できるようにする必要がある。</p> <p>黒沢独自の伝統野菜や伝統栽培方法を発掘し、次世代へとつなげる。未来につなげる種づくり。</p>		
4. 萩生川の河川環境保全による防災減災とさくらの里づくり 【環境保全】	令和3～12年度	地区協議会
<p>河川管理道路に桜を植栽し、萩生川さくらロードの整備を実施する(中津川地区の水仙ロードのような、地域間連携による花道づくり)</p> <p>萩生川は河川改修完了による防災減災が期待できる。地域での維持管理も必要。</p>		
5. 西山の山道づくりからの里山保全【環境保全】	令和3～12年度	地区協議会
<p>山麓から黒沢の中心を流れ、白川に注ぐ萩生川。それを囲む美しい田園景観を守るべく、より一層の西山の環境保全を推進する。</p>		
6. 黒沢の歴史ものがたり【伝統継承】	令和3～12年度	地区協議会
<p>黒沢には他に誇れる歴史的なものがある。それが、高伝寺と渡邊六郎兵衛家住宅長屋門である。</p> <p>歴史を振り返ることで黒沢にあるお宝の再発見をし、黒沢愛を深めることで、住民の活性化を促進する。</p> <p>また、学芸員の支援による文化財の特別公開や考古学講座の開催により、地域に人を呼び込み、にぎわいを再現する。</p>		

**【地区間連携事業】**

事業概要	連携地区	当該地区の役割
くろさわマルシェのスタンプラリー、移動販売	中・萩生地区	マルシェの場所提供
萩生川沿いのさくらロード	中・萩生地区	さくらロードマップ整備
黒沢歴史ものがたり	各地区	地区の歴史繋がり調査

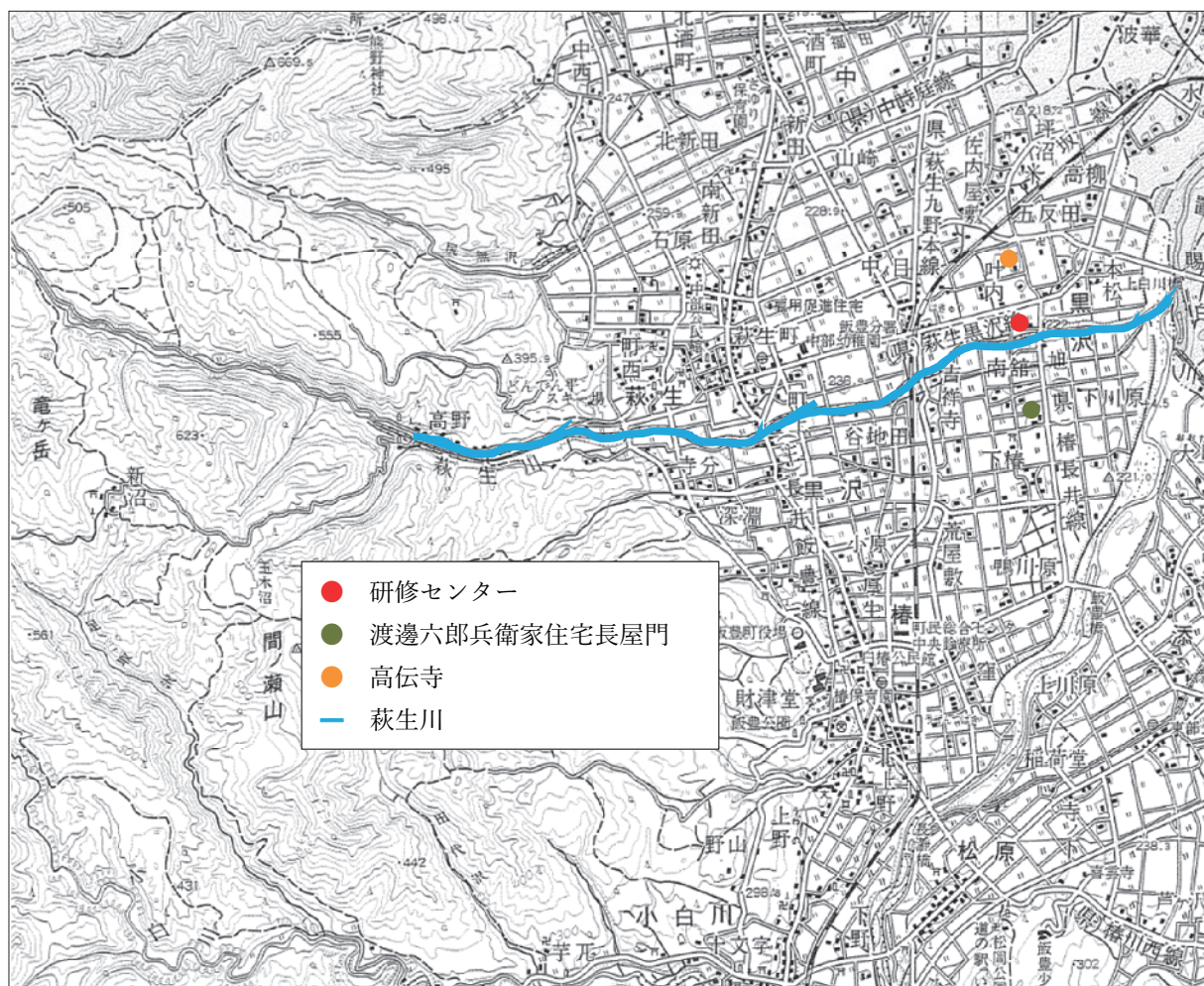
**【土地利用の考え方】**

萩生川沿い → 環境保全活動の活動場所

黒沢研修センター → イベントの実施拠点

高伝寺、渡邊六郎兵衛家住宅長屋門 → 黒沢歴史ものがたりの重点部分

## 【土地利用ゾーニング】



萩生川沿い→環境保全活動の活動場所・さくらロードの整備

黒沢研修センター→イベントの実施拠点

高伝寺、渡邊六郎兵衛家住宅長屋門→黒沢歴史ものがたりの重点部分

## 樫 地 区

### ～ つながり つむぐ つばきの里で ～

#### 【2030年の将来像】

田園、散居集落、里山の景観、今も残る伝統・文化を絶やすことなく次世代へとつなぎ、地区民一人ひとりが安心して毎日を生き生きと過ごせる樫地区を作っていく。



#### 【地区の概要データ】

(令和2年4月1日時点)

人口 男552・女572 計1,124 世帯数378 集落数10 高齢化率32%

#### 【現状と課題】

- ・ 少子高齢化が加速する中で、地域間の連携や助け合いの仕組みづくりが急務となっている
- ・ 地域づくりの情報提供や組織団体間の交流が不十分である
- ・ 地区内の空き家の実態調査をする必要がある。移住・定住のための地区としてのキャパシティの調査を行い、積極的に空き家バンクなどを活用できる環境づくりを行う
- ・ 地区内の单身・高齢者世帯の調査を行い、買い物・除排雪・安否確認等の支援策を講じる必要がある
- ・ 若者や一部の人に任せきりとなっている地区の雰囲気を開くため、地区民全員が自分事としてまちづくりに関わる意識づくりを行う必要がある

#### 【地区の資源・宝物】

- ・ 多くの公共施設(役場・あ～す・小中学校など)、散居集落及び里山と白川流域の景観、歴史的寺社仏閣と建造物、旧飯豊中学校グラウンドの桜並木、高寺山(西山)、飯豊公園、樫味噌、念仏踊り、獅子舞、エコタウン樫、下樫地区の蔵のある町並み、松山家行屋、ホープ館、みんなこ家、若者向けシェアハウス、樫焼窯跡

#### 【地区の将来像を実現するための重点事業】

事業概要	第4次 総合計画 との関係	地区の役割	行政の役割	場所
区民会を中心とし、地区民どうしが支え合える地域づくりを行う 〔(仮称)支え合える地域づくりプロジェクト〕	新規	団体の設立	補助金など運営全般のバックアップ	樫地区内
区民会活動を支えるため、白樫地区まちづくりセンターの機能拡充	新規	全般	補助金など運営全般のバックアップ	樫地区内

## 【アクションプラン】

アクションプランのテーマ・内容	第4次総合計画との関係	実施時期	実施主体
1. 支え合える地域づくり	継続	令和3～12年度	①主体：椿区民会、自治会長会 ②支援：白樺地区まちづくりセンター
<p>交流を生み、人と人が支え合える、笑顔あふれる地区づくりを推進します。</p> <p>(1)支え合える組織づくり 【いつまでに】 令和5年度まで 【なにをするか】</p> <p>①令和5年度までに「(仮称)支え合える地域づくりプロジェクト」をつくり、町社会福祉協議会地域支え合い推進員の協力を得ながら組織化を図る</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>必要な支えや見守りなどの課題を見い出すためのワークショップやアンケート調査を実施</li> <li>その結果を踏まえて組織・事業を検討</li> </ul> <p>②高齢者から子どもまでを見守り、令和6年度から「(仮称)支え合える地域づくりプロジェクト」事業の着手</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>区民会を主体とした除雪ボランティア、買物支援、もってんか運動(ゴミ出し支援)、安否確認、何でもしますボランティア(有償)、サロン等の交流事業の実施 など</li> </ul>			
2. 伝統文化をつなぐために	継続	令和3～12年度	①主体：椿区民会、自治会長会 ②支援：白樺地区まちづくりセンター
<p>椿の先人たちが築き守り続けてきた伝統や文化を、絶やすことなく次世代へとつなぎます。</p> <p>(1)椿の歴史文化、伝統行事をつなぎ、広めていくための事業の実施 【いつまでに】 令和7年度まで 【なにをするか】</p> <p>①「(仮称)椿の伝統・文化をつなぐプロジェクト」を組織し、課題解決方法を組み立てる</p> <p>②椿が形成された歴史・地形・風土的根拠、食文化等を発見・学び、椿で生活することの意義と価値を認識する</p> <p>③飯豊史話会と協力し歴史文化勉強会を開催し、地区民全員が地区の成り立ちを知る</p> <p>④伝統・文化を継承し学びながら、保育園、小学校、中学校と連携し、後継者の育成を図る</p> <p>⑤地区外に活動フィールドを広げ、地区の伝統・文化を発信し、「(仮称)椿の伝統・文化をつなぐプロジェクト」参加者を増やす</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>地区間での散居集落の景観を維持するための活動や活用法を考える活動</li> <li>高寺山(西山)などを活用したクアオルトツアーなどの企画運営</li> <li>椿の伝統的食文化を生かしたグルメツアーの企画 など</li> </ul>			

3. 老若男女がにぎわい出会える集いづくり	新規	令和3～12年度	①主体：樅区民会、自治会長会 ②支援：白樅地区まちづくりセンター
<p>にぎわいに溢れ、活力ある地区づくりを推進します。  (1) 樅全体のにぎわいの創出と地域の活性化につながる組織づくり  【いつまでに】 令和4年度まで  【なにをするか】</p> <p>①区民会、自治会長、青年会、女性グループ、NPO、商店会、白樅地区まちづくりセンターなどを構成主体とする「(仮称)樅地区地域活性化プロジェクト」を立ち上げる。地区全体の多様な地域課題の抽出とそれらの解決に取り組むための検討組織とし、②～⑤に掲げる各検討部会を統括する。</p> <p>②羽前樅駅前にぎわい通り再興活動  ・にぎわい通りの再興のために、区民会や地元企業、関係者を構成主体とする「(仮称)樅駅前にぎわいづくり検討部会」を設置。樅の玄関口として、旧山口医院跡地や農協倉庫を有効活用できる計画づくりや整備を促進するための検討組織づくりを行う</p> <p>③多くの教育文化施設を有する地区として、生活を豊かにする総合向学交流施設の要望の取り組み  ・区民会や関係団体を構成主体とする「(仮称)総合向学施設整備検討部会」を設置。現状について調査するとともに、地区民だけでなく町民にとって必要な施設を、具体的に提案し整備を要望する取り組みを行う  ・部会活動として「公共施設整備に関するワークショップ」「先進地視察」「アンケート調査」などを行う</p> <p>④屋内スポーツ施設整備のための機運づくりの取り組み  ・区民会や関係団体を構成主体とする「(仮称)スポーツ施設整備検討部会」を設置。現状について調査するとともに、地区民だけでなく町民にとって必要な施設を、具体的に提案し整備を要望する取り組みを行う  ・部会活動として「スポーツ施設整備に関するワークショップ」「先進地視察」「アンケート調査」などを行う</p> <p>⑤古民家や空き家を活用した「若者の集いの場」をつくる機運づくり  ・区民会や関係団体、地区の若者を構成主体とする「(仮称)樅地区地域活性化検討部会」を設置。現状について調査するとともに、地区の若者にとって必要な施設の整備を検討  ・プロジェクトの活動として「空き家を活用したにぎわいづくりワークショップ」「先進地視察」「アンケート調査」などを行う</p>			
4. 安心して生活するために	新規	令和3～12年度	①主体：樅区民会、自治会長会 ②支援：白樅地区まちづくりセンター、町
<p>地区民一人ひとりが安心して暮らし続けられる基盤をつくります。  (1) 商業施設の創出や防災対策を充実させ樅全体の安心安全を育む  【いつまでに】 令和3～12年度  【なにをするか】</p> <p>①「(仮称)つばきの里安心プロジェクト」の組織化</p> <p>②課題発見・解決方法の組み立て  ・ホープ館等の販売内容拡充や移動販売の充実など、今ある資源を見直し、高齢者も利用しやすく、かつ、人のつながりが生まれる買物空間を創設する  ・遊び場(郡之神公園等)を安全に利用できるよう維持管理をおこない、季節ごとの自然が楽しめるような環境づくりをおこなう  ・樅地区内の自主防災組織率100%を達成し、初期消火訓練・反射材・防犯灯といった防犯対策を充実させる。また、中学生の下校時の安全対策のため、安心して待つことができる居場所づくりを目指す</p> <p>③子育て世帯から高齢者世帯まで、すべての世代に分かりやすく周知する</p>			



5. 椿の美しい景観を守るために	新規	令和3～12年度	①主体：椿区民会、自治会長会 ②支援：白椿地区まちづくりセンター、町
<p>失ったら二度と取り戻せない椿の景観を守り育み、次世代へとつなぎます。</p> <p>(1) 椿の景観を今後も維持していくための活動</p> <p>【いつまでに】 令和7年度まで</p> <p>【なにをするか】</p> <p>①「(仮称)椿の景観を考えるプロジェクト」の組織化</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・椿地区の「残したい景観」をテーマにした写真コンクールを行い、椿の景観の魅力を再認識する</li> <li>・「景観保護委員」という役割を設け、年数回会議を開催し、どのように景観を維持していくか(NPOなどの外部機関に委託するなど)を決定する</li> </ul> <p>②「椿地区散策案内板」・「椿地区散策ガイド」の作成</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・写真コンクールの結果を踏まえ、案内板に表示する項目を決定し、NPOや関係機関と連携しながら案内板を作成する</li> <li>・椿地区の史跡をたどるモデルルートを掲載した散策ガイドを作成する</li> </ul> <p>③旧飯豊中学校グラウンドの桜並木および関連施設の整備</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・通路の整備はほぼ完了しているので、管理運営方法を検討し決定する</li> <li>・花見の時節にライトアップを実施し、椿地区を通過する人たちにも鑑賞してもらう</li> <li>・桜以外に、斜面を使った植栽も検討する</li> </ul>			

**【地区間連携事業】**

事業概要	連携地区	当該地区の役割
白椿地区公民館の改修	小白川地区	町への働きかけ
地区の資源を組み合わせた観光ツアーの企画運営	小白川地区	連携の推進
田園散居集落を維持するための環境整備活動	萩生地区、黒沢地区、東部地区、小白川地区	連携の推進

**【地区の土地利用の基本的な考え方】**

基本的には、現状の土地利用計画図を基に考え、商業施設（買い物空間）を考慮した時、適地はどの辺りか検討する。

椿地区の美しい景観を維持していくために、地区民自身が危険な空き家や耕作放棄地を作らないよう努める。

## 小白川地区

### 住みたくなるまち 天狗の里 小白川

#### 【2030年の将来像】

- ・やまがた百名山に選定され、来訪客が増加しつつある地域の宝「天狗山」の魅力を改めて見つめ直し、地区民はもとより、来訪客との交流など地域内外の人々が集い、語り合える交流拠点を整備し、それを核とした地域活性化を目指す。「天狗のように鼻高々と誇れる地域」に！
- ・子ども獅子の育成など伝統芸能の継承に注力し、次世代へ大切につないでいく。
- ・地域に暮らす人々が、支え合いながら健康で安心して暮らせる地域をつくる。



#### 【地区の概要データ】

(令和2年4月1日時点)

人口 男271・女267 計538 世帯数161 集落数7 高齢化率39%

#### 【現状と課題】

- 暮らしへの支援が不足しており不安を感じている
  - ・ 除雪への不安
  - ・ 買い物する場所が少なくなった
- 活気、にぎわいがなくなってきている
  - ・ 地域内の交流機会の減少
  - ・ 人口減少
- 道路・隘路問題
  - ・ 県道長井飯豊線の隘路解消
- 獣害問題(クマ、イノシシ)

#### 【地区の資源・宝物】

- ・ 天狗山(やまがた百名山)
- ・ 獅子まつり
- ・ スポーツを通じた地域の団結
- ・ 小白川神社
- ・ 豊かな森林
- ・ 広大な畑地(野山)
- ・ 子どもたち
- ・ 第二小学校
- ・ 水

## 【地区の将来像を実現するための重点事業】

事業概要	第4次 総合計画 との関係	地区の役割	行政の役割	場所
みんなが集う拠点づくり ・小白川地区公民館を中心とした拠点づくり、機能拡充 ・天狗山を活用した地域活性化 ・桜の植樹 (SDGs: 11、15、17)	新規 継続	区民会や公民館を中心に体制・環境を整える。 郷土料理加工所の整備 天狗山案内人の育成	関係各部署とのパイプ役 外部への発信 「天狗山登山」をふるさと納税体験型返礼品に設定	小白川地区 公民館周辺 天狗山周辺
伝統芸能の継承 ・獅子まつり ・子ども獅子育成の継続 (SDGs: 11、17)	継続	獅子連を中心に子ども獅子の育成をする	情報発信	小白川神社 周辺
人とのつながりで安心した暮らし ・除雪体制を整える ・買い物支援 ・郷土料理づくり人の育成 (食事(弁当)の提供、レシピの開発、登山客など来訪者との交流など) (SDGs: 3、11)	新規	・NPOとの連携 ・消防団・民生児童委員との連携 ・スーパー等の調整とPR ・集落コンビニ	除雪対策への環境整備 移動販売への財政支援	小白川全域
健康づくりで寝たきり予防 ・軽スポーツの普及(体を動かす習慣づくり) ・運動教室の開催 ・地区民登山 ・かんじきウォーク ・散策コース、サイクリングロードづくり (SDGs: 3、11、17)	新規	・体協やNPOとの連携 ・白樺地区公民館 ・奉賛会	講師派遣 情報提供、助言	小白川全域

## 【アクションプラン】

アクションプランのテーマ・内容	第4次 総合計画 との関係	実施時期	実施主体
1.【自分たちの手で誇れる地域をつくろう】 組織体制の構築	新規	令和3年度	小白川区民会 (仮)拠点づくりプロジェクト委員会
重点事業、アクションプランを実行し、魅力ある地域をつくるため、地域内組織体制について検証し、必要に応じて組織体制の見直しや構築を行う。			

2. 【みんなが集う拠点づくり】 天狗山を活用した地域活性化と交流促進	見直し	令和3～12年度	小白川区民会 (仮)拠点づくりプロジェクト委員会
拠点施設やその周辺の環境整備、登山マップルート調査・資源調査、登山道や看板等の維持管理、登山者の分析を行う。拠点施設は既存施設を活用し、直売や休憩所から試行する。地域産品を活用した加工場など必要に応じた改修、整備。			
3. 【みんなが集う拠点づくり】 天狗山登山や交流イベントの開催	継続・見直し	令和3～12年度	小白川区民会 (仮)拠点づくりプロジェクト委員会
地区民登山や地域外の方を対象とした登山イベント(山や森、文化を学びながら歩くイベント等)を開催する。また、日にち限定茶屋(仮)や交流の場を設け、登山者との交流を図り地域活性化に繋げる。地域住民が積極的に関わることにより郷土愛を育む。			
4. 【みんなが集う拠点づくり】 天狗山案内人の育成	新規	令和3～12年度	小白川区民会 (仮)拠点づくりプロジェクト委員会
天狗山や地域の勉強会をしながら、天狗山案内人を養成し、後世に語り継ぐ。			
5. 【伝統芸能の継承】 子ども獅子育成講座の備品・体制整備、 情報発信	継続	令和3～12年度	小白川獅子連
心の拠りどころとなっている伝統ある獅子舞文化を末永く守り伝えるため、子ども獅子育成講座の備品整備、人材の確認・確保、獅子雑学情報を共有する。 今の時代に合った練習方法と披露の場の提供、活動記録写真等。事業検証・活動記録は毎年度実施。			
6. 【にぎわい創出プロジェクト】 獅子まつりによるにぎわいづくり	新規	令和3～12年度	小白川区民会 小白川獅子連 (仮)にぎわい委員会
小白川出身で町外在住の方にダイレクトメールなどを送り、獅子まつりへの参加を呼び掛け、にぎわいの創出を図る。また、会場で子どもたちが楽しめるような雰囲気づくりをする。縁日、屋台、売店などを充実させる。			
7. 【人とのつながりで安心した暮らし】 除雪体制の整備	新規	令和3～12年度	(仮)くらし助け隊
NPOや消防団、民生児童委員と連携し、安心して生活できる除雪体制の基盤を整えていく。			
8. 【人とのつながりで安心した暮らし】 買い物支援	新規	令和3～12年度	小白川区民会 (仮)くらし助け隊
小売店が少なくなったため、移動販売車(食料品・日用品)を呼び込む。地域拠点の活用を模索する。訪問日等のスケジュール調整や地域の意見集約を実施。「地域通貨」の活用を検討する。			
9. 【健康づくりで寝たきり予防】 毎日できる体力・筋力づくり	新規	令和3～12年度	小白川区民会 ほのぼのサロン (仮)いきいき委員会
野山など地域の地形を活かしたウォーキングコースの設定など継続して運動できるしくみづくりを検討する。「日常の生活+α」自宅でもできる体力・筋力づくりに取り組む。また、天狗山への地区民登山やかんじきウォークなど地域資源を活用しながら楽しめるイベントを開催する。			

10. 【クマと共生するモデル地域づくり】 クマドッキリ作戦	新規	令和3～12年度	小白川区民会 (仮)くらし助け隊
小白川には豊かな森林があり、クマの出没が多い。住民が安心して暮らし続けるために、町や専門機関等の協力を得ながら、野生動物と共生できる仕組みを研究する。(長野県軽井沢町の事例「ベアドック」「学習放獣」や、「山際の地域でクマが寄り付きにくい作物を栽培」「山にクマの食べ物になる木を植える」など)			

### 【地区間連携事業】

事業概要	連携地区	当該地区の役割
ホタルの里づくり	中、萩生、椿、手ノ子地区	先進的な取組事例を参考に勉強会を立ち上げる。
天狗山マップ作成・資源発掘	椿地区	歴史文化の発掘と、次代へつなぐ資料作成
水仙ロード	手ノ子、椿地区	手ノ子、椿地区への働きかけ
白椿地区公民館の改修	椿地区	町への働きかけ
地区の資源を組み合わせた観光ツアーの企画運営	椿地区	連携の推進
田園散居集落を維持するための環境整備活動	萩生、黒沢、東部、椿地区	連携の推進

### 【地区の土地利用の基本的な考え方】

明治初期から昭和初期にかけ、多くの参拝客が遠方から天狗山を訪れ、小白川地区は、現在の一の鳥居付近を中心に旅館を始めとする様々な商店が立ち並び賑わいを見せていた。2019年に小白川地区のシンボルともいえる天狗山が「やまがた百名山」の選定を受けたことで、登山客の増加が見られることから地域活性化の糸口としたい。

地元食材を使った郷土料理加工所を作り、食を通して魅力を伝える。そして、料理の得意なおばあちゃん達の活躍の場をつくることで、女性の積極的な参画を促す。

また、獅子舞などの伝統文化は、古くから多くの地区民に愛され、地区外からの注目も高まってきている。将来的な文化継承に役立てるために、子ども獅子学習会の後押しを行い、地元出身者へPRチラシなどを配信するなど、まずは獅子舞ファン（関係人口）を増やしていく。ボランティアなどから協力・参加を促し、担い手不足解消・関係者の誇りにつながっていくような関係を築いていきたい。

以上のことから、地区の拠点小白川公民館周辺と考え、郷土料理加工施設や広場を活用した桜並木の植樹など、拠点を中心に町と連携を取りながら地域活性化を目指していく。

## 東部地区

### ～ここは ぼくらの イーデトープ（理想郷）～

#### 【2030年の将来像】

心安らぐ田園風景とあたたかな地域のつながりが、「住んで良かった」、「訪れて良かった」と実感できるまち。

- 丘陵地帯である眺山の豊かな里山と、白川が育む豊かな田園地帯を大切に守り育てていきます。また、みどり豊かに恵まれた住環境のなかで住民が豊かに安心して生活し、地域全体で子どもを守り育てる地域を目指します。
- 水芭蕉や桜回廊、松岡文殊堂、獅子舞などの豊かな地域資源を継承し、地域住民の連携と自主的な活動が、地域の伝統文化を守り、景観の保全や農林業の活性化を支える地域を目指します。
- 道の駅、しらさぎ荘、東山工業団地、バイオガス発電施設などの拠点が新たな産業と交流を生み出し、新たな賑わいと交流が創出する地域を目指します。



#### 【地区の概要データ】

（令和2年4月1日時点）

人口 男558・女614 計1,172 世帯数444 集落数9 高齢化率44%

#### 【現状と課題】

- 進学や就職による若者の流出などのほか、未婚者が増えつつあり、少子高齢化が進み、高齢者のみ世帯や単身世帯が増加している。人口や世帯数の減少により、地域や団体において個人が担う役割が増え、負担感が増してきている。
- 若者の定着が進まないことで子どもの数も減少し、小学校再編が協議されている。また、子どもが自由に遊ぶことができる公園等の施設が少ない。
- かつては多くあった商店も激減し、買い物は他市町のスーパーや大型店を利用している。一方で公共交通手段は限られ、高齢者は免許を返納すると日常生活にも不便をきたしている。
- 冬季間の雪対策の負担は大きく、地域の除雪支援の取り組みがあるが、管理不全の空き家も多く、地域の住環境の課題となっている。
- 地域の一大イベントである「添川温泉ふるさと温泉祭り」は開催時期や開催方法など、工夫や負担軽減を求める声がある。
- 地域の魅力や資源を再認識し、愛郷心を醸成するために自分達の地域を深く知る機会が必要。
- 若者や女性の意見を地域づくりや地区計画に反映させ、若者や女性が生き生きと活躍できる場の構築が求められている。

#### 【地区の資源・宝物】

眺山からの眺望景観、ながめやま牧場、米沢牛発祥の地、上代から川西への県道の桜並木、眺山の桜回廊、水芭蕉群、白川及び白川公園、松岡文殊堂、ビオトープ、東山工業団地、飯豊少年自然の家、道の駅、めざみの里観光物産館、国道113号など、交通の便が良い、添川小学校、添川児童センター、添川温泉、宿泊施設、添川住宅団地、添川温泉ふるさと祭り、アスパラガス、すがい肉屋の馬刺し、お米がおいしい、豊かな農地

## 【地区の将来像を実現するための重点事業】

事業概要	地区の役割	行政の役割
子育て世代も高齢者も安心快適に暮らせる地域	実行組織編成 計画と実行	財政援助 施設利用に係る支援 計画時・実行時におけるアド バイス
農業・観光・新産業による地域経済振興と地域活性化		
地域の文化振興と発信		

## 【アクションプラン】

アクションプランの概要	1. 子育て世代も高齢者も安心快適に暮らせる地域	
(詳細) 子どもたちとその親世代が集い、のびのびと遊びながら学力・体力を向上させることができる環境を構築します。また、高齢者が集い、仲間と安心して過ごせる場所を整備することで、高齢者の生活に楽しみと喜びを提供し、家族に安らぎの時間を提供します。		
アクションプラン①	実施時期	実施主体
しらさぎ荘と東部地区公民館・東部地区まちづくりセンターを中心に、子どもたちだけでも安心して遊べる施設や、親世代が気軽に集い子育ての情報交換と親同士のネットワークを構築できる場所を創設します。	令和3～12年度	地区長会 地区公民館・ まちづくりセンター
アクションプラン②	実施時期	実施主体
添川住宅団地を始めとして、地区に子育て世帯を呼び込むことで、地域の人口を増やすとともに子ども人口を増やし、学校や児童センターの存続や地域の賑わい再生を目指します。	令和3～12年度	地区長会
アクションプラン③	実施時期	実施主体
地区内の空き家を活用した低料金の喫茶団欒スペースの創設や、しらさぎ荘、東部地区公民館・東部地区まちづくりセンターと連携し、入浴と団欒スペース(必要に応じて軽食の提供)をセットにしたプランの提供など、高齢者が家にこもらず外に出て仲間との交流を持つことのできる環境を構築します。また、東部地区公民館・東部まちづくりセンターの更なる有効活用や分館のコミュニティスペースとしての活用について話し合い、地域の人達が集まる場づくりを進めます。	令和3～12年度	地区長会 地区公民館・ まちづくりセンター
アクションプラン④	実施時期	実施主体
地域の支え合い事業(例として高齢者宅除雪ボランティアや見守り活動)の継続と若者世代の参加促進により、事業を通じて地域コミュニティの強化を図ります。	令和3～12年度	地区長会

アクションプランの概要	2. 農業・観光・産業による地域経済振興と地域活性化	
<p>(詳細) 東部地区に豊富にある農業・観光・産業(企業)といった資源を連携・活用し、地域経済の振興と地域の活性化を図るため、検討組織と計画づくりを行います。 休耕地を活用した果樹栽培など、地域性にあった付加価値の高い農業を推進することで、耕作放棄地など農地の荒廃を防ぎ、豊かな田園景観の維持管理に努めます。 また、地域資源を活用したコミュニティビジネスの可能性について検討し、参加者の生きがいづくりなどの高齢者福祉、地域における雇用創出や経済振興につなげます。</p>		
アクションプラン①	実施時期	実施主体
<p>農業・観光・産業(企業)の連携・活用のための検討組織の立ち上げと計画づくり</p>	令和3～5年度	地区長会
アクションプラン②	実施時期	実施主体
<p>風土と地質に合った高収益作物を模索 風土と地質に合った高収益作物の選定(農産物として、加工品として、またはその両方で高収益) 栽培方法、加工及び販売の調査研修(例:ブドウ栽培とワイン作り) 試験栽培実施 計画賛同者による試験栽培開始 地域資源の活用とブランド化を目指してバイオガス発電の副産物である液肥を利用 加工品づくり 加工品づくり。場合によっては委託により実施 試験販売 作付け面積の拡大 新規作付け農家と新規就農者への支援体制を構築する。 休耕農地と遊休農地を活用し栽培面積を拡大する。 地域に収益をもたらすと共に、豊かな田園景観の保全を図る。</p>	令和5～12年度	地区長会
アクションプラン③	実施時期	実施主体
<p>耕作放棄地を利用し、地域住民参加型の作物作りと、収穫した作物を利用した地域の交流会を実施する。</p>	令和3～12年度	地区長会
アクションプランの概要	3. 地域の文化振興と発信	
<p>(詳細) 水芭蕉や桜回廊、松岡文殊堂、獅子舞などの豊かな地域資源を継承し、地域住民の連携と自主的な活動の展開により、地域の伝統文化を守り、景観の保全や地域コミュニティの活性化を推進します。また、自分たちの地域を深く知ること、地域の魅力や資源を再認識し、愛郷心を醸成します。</p>		
アクションプラン①	実施時期	実施主体
<p>観光物産館と共に、由緒ある松岡文殊堂のPR、参拝者増加とそれによる物産館来客数増加の相乗効果について検討します。例として、物産館に松岡文殊堂の由来等の看板を設置することで、松岡文殊堂の認知度を向上させると共に、物産館からの観光客の流れを生むような仕組みを構築します。また、クラウドファンディング等で資金を募り、物産館から松岡文殊堂への参拝ルートを整備、文殊堂改修を実施し、かつての隆盛を再興します。 また、利用者マナーを徹底した上で松岡公園キャンプ場の活用を促進し、町外客を呼び込めるレジャーポイントとします。</p>	令和3～7年度	地区長会

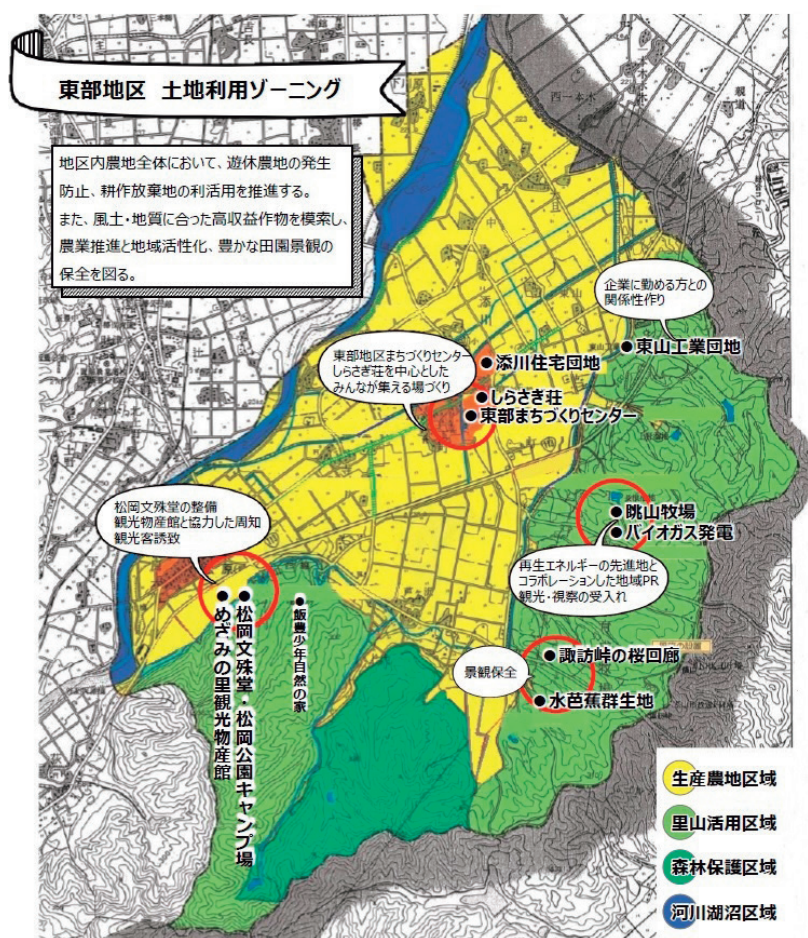


アクションプラン②	実施時期	実施主体
添川温泉祭りのテーマ付け・意義を再考し、例として東部地区内の神社とのコラボレーションによる獅子舞の競演、竿灯の復活など、地域外からも集客を生む祭りを地域全体で作り上げるにより、地域の活力を再興します。	令和3～5年度	地区長会 添川祭実行委員会
アクションプラン③	実施時期	実施主体
東部地区の地域資源、住環境、イベント等を発信することのできる場をSNS等で立ち上げ、継続的な情報発信を行います。	令和3～5年度	地区長会

## 【土地利用の考え方】

(かつて作成した「東部土地利用計画」(第3次総合計画)を基本とした田園景観の保全を核とした土地利用計画を、住民の合意を形成しながら進める。)

## 【土地利用ゾーニング】



## 手ノ子地区

## ～ 私たちの暮らしとふるさとに魅力と誇りを創る ～

## 【2030年の将来像】

- ① 「小さな拠点」が機能して住みやすい「手ノ子」になる。
- ② 「手ノ子はとってもいいところ」という人が多くなる。
- ③ 「手ノ子牛」を提供する店が手ノ子にできる。
- ④ 手ノ子に人が増える。
- ⑤ 雪室を利用して高収益の農業ができる。
- ⑥ 部会活動がさらに充実している。



## 【地区の概要データ】

(令和2年4月1日時点)

人口 男228・女245 計473 世帯数168 集落数6 高齢化率42%

## 【現状と課題】

1. 最盛期には280戸あった世帯数が現在は170戸弱に減少した。高齢者世帯が多く、今後、世帯数減少が加速的に進むのではないかと懸念している。空き家対策と土地利活用推進が喫緊の課題。
2. 人口減、世帯数減に伴って、集落の組織と機能の劣化が懸念される。これを立て直す必要がある。有効な方法と思われるのが、小さな拠点整備と集落ネットワーク圏づくりだ。第一歩を踏み出したい。
3. 豪雪地であることから、冬期間の暗い雰囲気や雪始末の苦勞が多いなど、手ノ子に対するマイナスイメージをもっている人が多い。「雪」が有益な資源であることや「雪」が苦痛にならない住環境づくりなどの具体的な事例を提示し、手ノ子を安心して、誇りをもって暮らせる地域にする必要がある。
4. 子どもが少ない。主な理由は二つ、一つは若者の流出。もう一つは結婚難。Uターン、Iターンが進む環境づくりと若い男女の出会いづくり作戦が必要だ。
5. 近い将来、新潟山形南部連絡道路(新山道路)が整備される。米坂線開通と宇津トンネル開通が地域衰退の引き金になった手ノ子地区にとって新山道路は、三度目の地域衰退の原因になるのでは、と心配する。それを乗り越えるインフラ整備など地域振興策が求められる。
6. 里山が放置されていることから里山の樹木が住宅の間際にまで侵入している。里山荒廃が住環境悪化の原因になっている。景観を創る取り組みに加え、魅力ある住環境づくりも欠かせない施策だ。
7. 越後米沢街道の重要な宿場であった歴史の息遣いが、今もなお残っている。下田通りや落合通りに強く残っている。これを大切に歴史の息遣いが分かる手ノ子の街づくりを進めたい。
8. 国などから高い評価を受け、地域づくり大賞・総務大臣賞を受賞した、当協議会部会などの里づくり活動だが、ここに来て、これまでを再点検する時期に来たように思う。活動がマンネリ化していないか、という視点も欠かせないが、加えて、「地域の活性化」にどう寄与していくかという視点が特に必要だ。

## 【地区の資源・宝物】

- ① 手ノ子の(宿場町、農村としての)歴史と文化
- ② 手ノ子の集落(通り)とその周辺(田園、里山)の景観
- ③ 手ノ子区協議会(里づくり推進委員会・部会)の活動の蓄積

## 【地区の将来像を実現するための重点事業】

事業概要	地区の役割	行政の役割
他の地区と連携した「小さな拠点づくり・集落ネットワークプロジェクト」の立ち上げと整備	他地区と連携したプロジェクトチームの結成	まちづくりセンターの支援
中山間地域の住環境改善と地域景観整備	他地区と連携したプロジェクトチームの結成	まちづくりセンターの支援
手ノ子への魅力ある移住定住促進	委員会の設置と計画づくり	—
雪室整備に向けた組織づくり	他地区と連携したプロジェクトチームの結成	担当課(情報提供など支援)
「手ノ子牛」を手ノ子で提供する環境整備	プロジェクトチームの結成	
4部会での5つの活動の推進と発展 (ヒメサユリの保存・繁殖・観光資源に活用する条件整備、雁沢川ホテルの里整備、八幡山桜の森整備、地域家庭料理提供事業、宇津峠と手ノ子宿場の歴史と文化発掘)	部会活動の実施	—

## 【アクションプラン】

アクションプランのテーマ・内容	実施時期	実施主体
1. 「小さな拠点」と「集落ネットワーク圏」整備	令和3～12年度	手ノ子区協議会・連携地区
地域の活力と地域住民の意欲の向上、組織力の強化を図るため、当地域に「集落ネットワーク圏」と「小さな拠点」の仕組みと機能を導入し、地域再生を図りたい。基礎集落を温存しながら、中心集落と各集落をネットワーク化し、失われた機能を補い合い、更に中心集落に多様な機能を育成し、集中させる。そのためには地区として、まず、プロジェクトチームを編成して、集落ネットワークの具体的な姿と小さな拠点に必要な機能などを取りまとめ、地区でできることを実践し、その上で、国、町の支援を導入していく。		
2. 中山間地域の住環境改善と地域景観整備	令和3～12年度	手ノ子区協議会・連携地区
①山際にある住宅地では里山が荒廃した(手入れが行き届かなくなった)ことによって樹木が宅地まで押し迫っている。生活(住)環境の悪化を改善するため、宅地周り周辺の里山整備を行う。 ②魅力ある地域の景観を創るため里山整備を行う。		
3. 定住促進住宅(子育て支援住宅)整備の実現に向けて	令和3～12年度	手ノ子区協議会・飯豊町
当地域の喫緊の課題である小学校の統廃合問題や若者の流出、結婚難による地域衰退を解決するため、区協議会は、Uターン者、Iターン者などにとって魅力ある受け皿となるよう空き家の利活用や中古住宅リフォーム等、住みよい環境づくりを図っていききたい。また、人口増・子ども増のため、町に対し、定住促進住宅(子育て支援住宅)の整備を継続して要請していく。		
4. 雪室整備	令和3～12年度	手ノ子区協議会・連携地区・飯豊町
多雪地である当地域にとって、雪のマイナスイメージを払拭するには、雪をエネルギーとして利用する「雪室」が必要である。冷房コストの極めて低い「雪室」の導入により、保管室ごとに温度・湿度管理、市場動向を見ながらの出荷管理が可能になり、農業者の高収益につながっていく。将来、地域高規格道路が整備されれば、生産者⇒雪室⇒消費地と、太いパイプがつくられることになる。そのためには、当面、農業者や農業関係者との懇談から始めていきたい。その上で、「雪室」整備に対し、国、町の支援を要請していく。		

5. 「手ノ子牛」を手ノ子で提供する環境整備	令和3～12年度	手ノ子区協議会
米沢牛のルーツは手ノ子。手ノ子はかつて「手ノ子牛」の集散地であった。その手ノ子で「手ノ子牛」を提供する店をつくる取り組みを行う。		
6. 宇津峠(越後米沢街道)と手ノ子宿場の歴史と文化発掘	令和3～12年度	手ノ子区協議会(宇津峠部会)
宇津峠(越後米沢街道)と手ノ子宿場の歴史と文化は当地域の貴重な財産。新たな発掘と次代への継承に取り組むほか、「手ノ子」を潤いのある街並みにするためにこの財産を生かしていく。		
7. ヒメサユリの保護・育成事業	令和3～12年度	手ノ子スキー場活性化組合・手ノ子区協議会(スキー場部会)・飯豊町
手ノ子スキー場ゲレンデに自生しているヒメサユリ(環境省レッドデータ準絶滅危惧種)の保護と繁殖に取り組む。		
8. 雁沢川ホテルの里整備	令和3～12年度	手ノ子区協議会(雁沢部会)
雁沢を維持管理する傍ら「ホテルの里づくり」を取り組んできた。今後は、ホテル観賞イベントなどソフト事業を導入するとともに、地域全体を「ホテルの里」にする取り組みを行う。		
9. 八幡山桜の森整備	令和3～12年度	手ノ子区協議会(さんさん部会)
14haの元採草地にサクラなど花木を植栽して、八幡山が地域住民のよりどころとなるよう、里山づくりを継続するとともに、今後はさらに、観光客誘客のためにイベントなどを展開していく。		
10. 地域家庭料理提供事業	令和3～12年度	手ノ子区協議会(さんさん部会)
地域に昔からある郷土料理をレシピ化して次の時代に継承する取り組みを行ってきた。レシピ化したデータを基に郷土料理として普及するとともに商品化を目指す。		

**【地区間連携事業】**

事業概要	連携地区	当該地区の役割
他の地区と連携した「小さな拠点づくり・集落ネットワークプロジェクト」の立ち上げと整備	手ノ子地区、高峰地区、状況によっては中津川地区	他地区と連携したプロジェクトチームを結成
中山間地域の住環境改善と地域景観整備	手ノ子地区、高峰地区	他地区と連携したプロジェクトチームを結成
雪室整備に向けた組織づくり	全域	他地区と連携したプロジェクトチームを結成

**【土地利用の基本方針】**

手ノ子は白川沿いに発達した河岸段丘の要に位置しています。かつてイザベラバードが「東洋のアルカディア」と賞讃した美しい田園を見渡すことができます。宿場町として栄えた手ノ子はその面影を残しているものの、地域全体が、人口減少、産業の衰退が進み、土地利用の荒廃が現われはじめました。さらに、新山道路の開通は、手ノ子に限っては、これらに拍車をかけるのではないかと心配されます。

そのような中で、小さな街を宿場の面影を残した街並みに再生することができるのではないかと考えております。また周囲の水田、畑地、森林(里山)は、その穏やかな景観を保全、修景し、心の

ふるさと、レクリエーションの場としての活用が期待されます。

一方で、荒廃空き家、荒廃宅地が目立ちはじめた集落環境を整備し、優れた住環境に再生する取り組みや「雪」に悩まされる居住環境の改善に取り組むことも忘れてはなりません。その再生と魅力増進に取り組みます。加えて、手ノ子での生活の利便性、快適性を確保するため、「小さな拠点づくり」を土地利用計画に位置付け、高峰地区とも連携し、行政と協働してその構想を進めていきます。

### 【土地利用ゾーニング】



## 高峰地区

### 心ゆたかな未来へ～ゆいの里 たかみね～

#### 【2030年の将来像】

住民相互に助け合いの気持ちを持って「ゆいの里」を継承し、一人ひとりが生き生きと笑顔で輝く高峰の実現



#### 【地区の概要データ】

(令和2年4月1日時点)

人口 男158・女148 計306 世帯数106 集落数5 高齢化率43%

#### 【現状と課題】

- ・ 少子高齢化が進行
- ・ 高齢者のみ世帯の増加
- ・ 空き家の増加
- ・ 倒壊家屋の増加
- ・ 商店もなく買い物難民が増える
- ・ 未婚者が多く子供がいない
- ・ 少子化で学校もなくなる
- ・ 農業者の減少で耕作放棄地が増加しそう
- ・ 人口減で集落が維持できない
- ・ 豪雪地帯である

#### 【地区の資源・宝物】

- ・ 白川清流の豊かな自然
- ・ そば畑とそば工房
- ・ ゆいの里プロジェクトで地域のまとまり
- ・ 山菜等豊かな農作物
- ・ 白川ダムの景観
- ・ 豊富な雪

## 【地区の将来像を実現するための重点事業】

事業概要	第4次総合計画との関係	地区の役割	行政の役割	場所
①白川沿いの環境整備と白川ダム利活用 (SDGs: 8、14、15、17)	継続・発展	周辺環境整備の町への提案 河川周囲の支障木伐採等の維持管理・保全 イベント開催、PR活動、ダムの調査 ワカサギの養殖技術研修・習得	西高峰橋架け替え 河川周囲の支障木伐採等の維持管理・保全 国・県への積極的なアプローチ ダム利用の交渉 許可申請の仲介	新西高峰橋周囲とダム湖
②地区間連携による蛸の棲む里づくり (SDGs: 4、15、17)	新規	場所の選定、生息地調査 他の地区と協力して蛸の養殖	地区間連携の仲介 先進地から講師を紹介 学校の授業等で紹介・活用	未定
③土地の有効利用による地域の活性化 (SDGs: 2、9、12)	新規・継続	場所の選定 ネット活用によるオーナー募集 棚田の再生 山菜の生産・加工技術の習得	農業体験希望者のリサーチ 資金等の支援 生産・加工技術指導者の紹介	高峰地区全体
④高齢者支援による安心・安全な地域づくり (SDGs: 3、10)	新規・継続	地区食改の協力を継続 依頼 送迎支援の組織づくり	資金等の支援	高峰地区
⑤克雪、利雪の推進 (SDGs: 12)	新規・継続	PR活動	PR活動 資金等の支援	多目的集会所周辺

## 【アクションプラン】

アクションプランのテーマ・内容	第4次総合計画との関係	実施時期	実施主体
1. 清流白川沿いの整備	継続	令和3～12年度	町・高峰地区協議会
人を呼び込むため、今ある物を利用した白川清流沿いの美化整備を進める。(支障木伐採) 河川敷に広場の検討 高峰そば工房付近の整備をし、いずれは散策ロード、サイクリングロードを作り、高峰地区を回れるようにしたい。(プランニングをし、2km、4kmと徐々に進めていく) その周囲には水仙ロード、桜の花見ができる場所作り、藤の花が見える環境づくりを進めていく。			
2. 白川ダム の 利活用	新規	令和3～12年度	町、白川ダム 高峰地区協議会
ダムを利用したイベントの開催。中津川地区との連携も模索。 春～夏：水没林の遊覧船(ボート) 冬：可能であるならワカサギ釣り(ワカサギの養殖・放流)			
3. 蛍の棲む里づくり	新規	令和3～12年度	高峰地区協議会
蛍の棲む場所を調査し、最適地を確保する。蛍の繁殖を技術の習得と環境保全PR。			
4. 田畑の利活用	新規	令和3～12年度	高峰地区協議会
田畑のオーナー制度や体験農業などが出来ないかを情報収集し、地区に合った企画立案を実施していく。			
5. 山菜の生産と加工、わらび園の開設	継続	令和3～12年度	高峰地区協議会
わらび園を造成し観光客を誘致したい。(候補地の調査・検討) わらび加工品の製造販売を検討していく。			
6. 高齢者支援の組織づくり	新規・継続	令和3～12年度	高峰地区協議会 食改の皆さん
現在いきいきサロンを実施しているが、参加者が少ないため送迎をする組織を立ち上げて、多くの人が参加しやすくし、「元気で長生き」の地域づくりを目指したい。また食改の方々の協力で昼食を提供してもらいながら楽しい憩いの場を作りたい。			
7. 克雪・利雪の推進	新規・継続	令和3～12年度	高峰地区協議会
小野川温泉の《“かまくら”でラーメンを食べる》催しを参考にして、“かまくらでそばを食べてもらう”企画を検討したい。 まずはかまくら造りや誘客の手法を学び県外からも客を呼び込みたい。そして雪で遊んでもらうスノーモービル体験などもしてもらおう。			
8. 地域住民の交流支援	新規	令和3～12年度	町・高峰地区協議会
地区行事等に参加を促すため、ポイント制度を導入し、参加意欲を高めていく。 伝承文化を守りながら、住民全員参加の地域づくりを目指していく。 未婚者交流支援としては、地区の行事や協議会の行事、町の行事に参加してもらおう声掛けをし、出会いの場を提供していく。(各行事について随時情報収集と発信をしていく)			



## 【地区間連携事業】

事業概要	連携地区	当該地区の役割
小さな拠点づくり	手ノ子地区	
白川沿いの整備とダムの利活用	手ノ子地区、中津川地区	連携事業の開催
蛭の棲む里づくり	町内で蛭に関する事業を展開している地区	先進地の視察・研修技術習得

## 【土地利用の考え方】

高峰地区は南北に長く、南に白川ダムがあり、地区の北の置賜白川沿い（下流域）に集落が散在する中山間地域であり、後継者不足の農林業に不安を抱え、少子高齢化が進み、地域環境の悪化も懸念されます。

また地域の集落機能が低下し、組織の再編も検討しなければならない状況下にあるのも現実です。

これらを踏まえた上で、地域の活性化を図るような計画を立てつつ、地域資源を生かし立地条件をも生かした、新たな地域づくりを進めることにより、誰もが安心・安全に暮らし続けられる「ゆいの里たかみね」を作っていければと思います。

そのためには今までと同じでは難しい面もあるため、先代からの知恵を生かしながら、新たな発想と新たな力で、祭りや行事、生活様式など継承できるもの、記録で残すものを選び分けながら地域に残していきたいものです。

農地の荒廃を止める手立てとしての基盤整備事業も検討しながら、将来へ残していける地域づくりも検討してまいります。地域の皆さんの経験と知恵を結集して達成しましょう。

## 中津川地区

### ～ここに暮らすしあわせ・いいもんだ中津川～

#### 【2030年の将来像】

中津川地区は、本物の豊かな暮らしができる地域として、自給自足・自立できる地区となること目指します。そのため、豊富な地域資源を生み出す人と自然（山、里、川、雪）を生かしながら、自給自立圏構想に基づく「中津川村民協同組合（仮）」または「中津川むらづくり会社（仮）」の設立を目指します。



#### 【地区の概要データ】

（令和2年4月1日時点）

人口 男119・女119 計238 世帯数107 集落数9 高齢化率61%

#### 【現状と課題】

- ・人口減少、少子高齢化が顕著であり、単身高齢及び高齢者のみの世帯が多い。高齢者は運転免許返納で動けない。共同作業にも出られない人が増加、集落機能の維持も困難になってきている。
- ・地区内に職場が少なく、特に若者の就きたい職場がない。娯乐的施設も少ない。
- ・農業、イベント開催、伝統技術継承などで、後継者・担い手不足、人材不足が見られる。
- ・子育て環境が悪化（幼児保育の場がない）、学童生徒の通勤環境も厳しくなっている。
- ・野生動物（イノシシ、サル、クマ等）の被害が増加しており、いかに共存を図るかが課題である。
- ・山林等の豊かな資源を生かしてきていないところがある。
- ・主要道路が1本であり、菅沼峠の利便性が悪い。

#### 【地区の資源・宝物】

##### 【宝物】

- ・景観（飯豊山、川・清流、森林、水没林、ダイヤモンドダスト）
- ・四季を感じられる、太古からの自然
- ・空気、おいしい水、雪、イワナなどの川魚、山菜、山野草、野鳥、熊
- ・化石や遺跡（上谷地遺跡）、穴堰、ジオサイト

##### 【次代に残したいもの】

- ・菅細工（花笠作り）など昔から受け継がれている‘技’
- ・自然を生かした生活、結、物事を決めるときのまとまり、人を受け入れる「中津川気質」
- ・資源である雪、雪室
- ・中津川雪祭り、SNOWえっぐフェスティバル
- ・岩倉神社など各地区の神社、草木塔
- ・郷土料理（のりもち、くるみ南蛮みそ等）、中津川の昔話

## 【地区の将来像を実現するための重点事業】

事業概要	第4次 総合計画 との関係	地区の役割	行政の役割	場所
中津川総合産業法人の設立事業 （「中津川村民協同組合（仮）」または「中津川むらづくり会社（仮）」を設立する。） （SDGs：3、4、8、9、11）	新規	設立に向けた検討、 準備体制	助言	地区全体
主要地方道米沢飯豊線菅沼峠の整備事業 （中津川地区の生命線道路の複数化） （SDGs：3、8、9、11）	新規	請願運動	県への請願 事業の実施	
「中津川の未来」創造事業 （中津川の環境の維持と最大限の活用をめ ざす総合計画の策定と、担い手（組織）育 成方策を検討する。満足度・幸福度の最大 化めざす。） （SDGs：3、4、8、9、11、13、16、17）	発展	検討	助言、指導	地区全体

## 【アクションプラン】

【重点】 重点アクション      【可能】 可能性をさぐるアクション

アクションプランのテーマ・内容	第4次 総合計画 との関係	実施時期	実施主体
1. 産業の育成（農業、林業、観光、特産 品開発）	継続 一部新規	令和3～12年度	むらづくり協議会 生産組合、中津川地区 財産区
<b>【重点】</b> ① 総合産業法人「中津川村民協同組合（仮）」を設立する。 ② 財産区有林等の有効活用（木材、山菜、観光）について見直す。 ③ 大学生の実習受け入れを行う。 ④ 山菜などを活用した特産品（中津川ブランド）を作る。 <b>【可能】</b> ① 地区内産物（山菜、農産物、木材）の増産と加工・販売事業の拡大・発展を図る。 ② スマート農業、スマート林業の導入に向けた体制作りを図る。 ③ 観光客増加に向けた取り組み（中津川絶景カレンダー制作、SNS発信等）を構築する。 ④ 中津川ブランドのPR事業を行う。			
2. 教育や子育て環境の整備	新規	令和3～12年度	むらづくり協議会
<b>【重点】</b> ① 年齢を超え支えあう仕組み、子供と高齢者との交流促進の仕組み・プログラムづくり ⇒ 「中津川寺子屋プログラム」をつくる。 <b>【可能】</b> ① 地区内に保育できる体制を作る。⇒ 「森の保育・幼稚園構想」 ② 地域内で子供たちが、地域体験できる体制を作る。 ③ 子供が集まれる施設を設置する。			

3. 居住環境の改善と集落機能の維持	新規	令和3～12年度	むらづくり協議会
<b>【重点】</b> ① 自立、共助の環境を整理し、地区民の満足度・幸福度のアップを図る。 ② 各種の共同作業等に地区外からの協力者を増やし、集落機能の維持を図る。 <b>【可能】</b> ① 高齢者の集える環境(ゆうゆうクラブ等)の充実(男性参加など)を図る。 ② 高齢者の趣味を活用した作品の発表の場や販売環境を整備する。 ③ 若者が集える場所(カフェ、居酒屋、カラオケ等)を整備する。 ④ 地元産の資源で住居、食の自給が図られるモデルの活性や実践をする。			
4. 地区外者・団体と連携した地域振興	新規	令和3～12年度	むらづくり協議会
<b>【重点】</b> ① 地区内の環境整備(県道・町道の草刈り、堰払いなど)の継続化に向け取り組む。 ② 中津川地区の元住民などとの関係人口増加の仕組みづくりを行う。 <b>【可能】</b> ① 「源流の森」と連携した森林活用を推進する。 ② 大学との連携による雪活用の研究や地域デザインの見直しを行う。 ③ 交流人口やインバウンドの対応ができる受け入れ態勢の構築を図る。			
5. 伝統の維持や地域活性化を図る方策	新規	令和3～12年度	むらづくり協議会
<b>【重点】</b> ① 中津川の技(伝統工芸、山菜栽培等、劇団)を学ぶ研修会を開催(一部学校開設)する。 ② マタギ文化の復活に向けた人材育成を行う(狩猟免許の取得、実践指導)。 <b>【可能】</b> ① 昔ながらの写真や資料、農具などの収集と保存を行う。 ② 森林資源を活用したイベント開催やアウトドア指導人材の育成を行う。			
6. 移住環境の整備	新規	令和3～12年度	むらづくり協議会 地区公民館
<b>【重点】</b> ① 関係人口対策と移住後の定着に係る課題(どのような層をねらうか、住宅と仕事、子育て環境など)を検討する。 ② 「移住しやすい中津川」に向けた意識改革・社会づくりを行う。 <b>【可能】</b> ① 移住しやすい中津川地区移住相談所(窓口：地区公民館)の機能を強化する。 ② 地区内空き家の確保と、情報提供を強化する。 ③ SNS等を活用した「移住地・中津川」の発信を行う。			
7. 人材の育成・確保	継続	令和3～12年度	むらづくり協議会
<b>【重点】</b> ① 中津川の総合的なむらづくりを担う人材登用と育成を行う。 <b>【可能】</b> ① 地区内人材育成のための事業(派遣研修、研修会)を継続実施する。 ② 地区外からの人材を積極的に求める。 ③ ベンチャー企業等を誘致し、収益やノウハウなどを地域に還元を図る。			

## 【地区間連携事業】

事業概要	連携地区	当該地区の役割
水仙ロードの整備・拡充	手ノ子地区、高峰地区	連携して整備事業等を開催

## 【地区の土地利用の基本的な考え方】

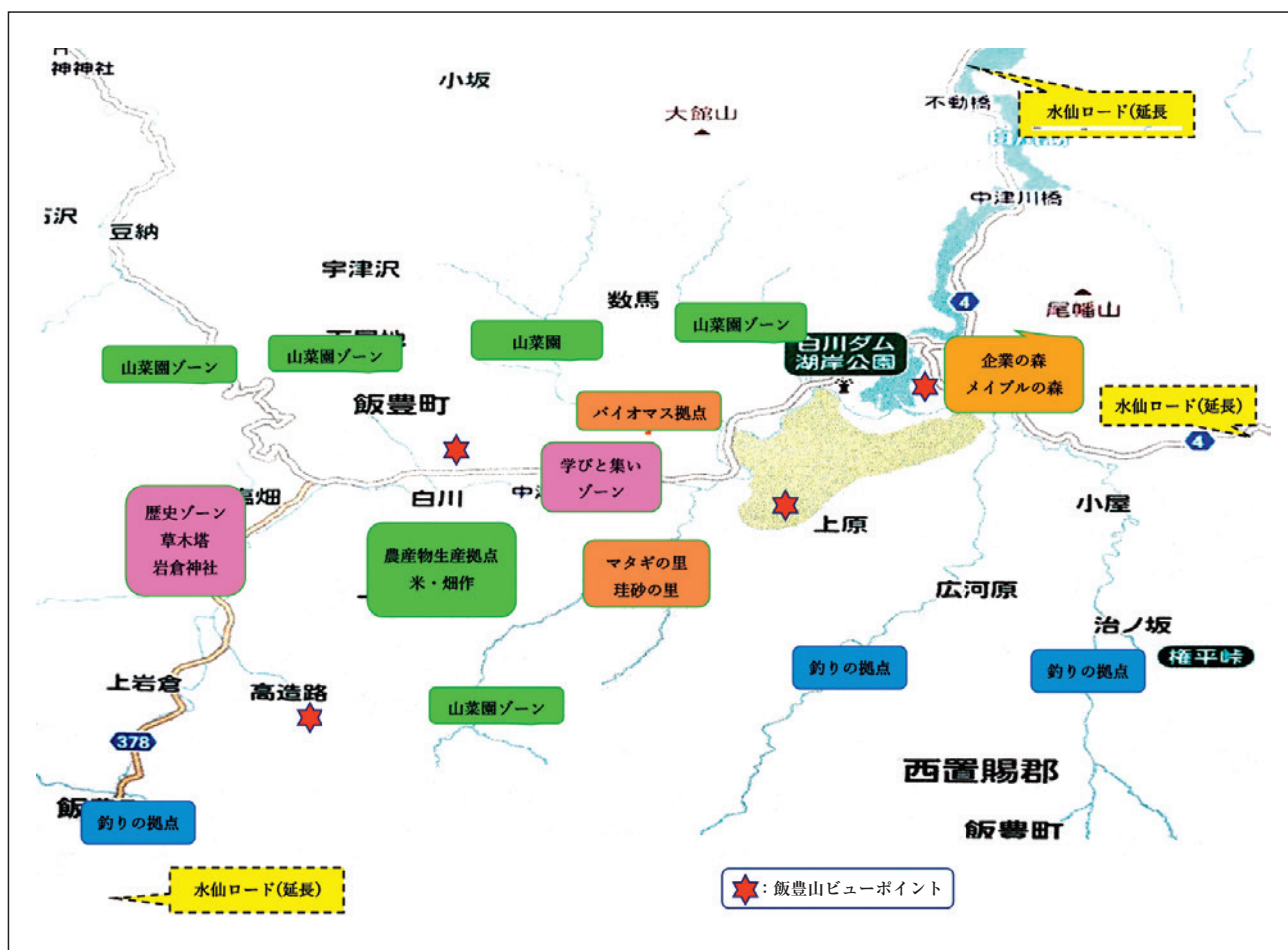
中津川地区は、町中心部から20km離れ、主要地方道路米沢飯豊線（白川ダム道路、菅沼峠）と、冬季閉鎖となるが林道飯豊桧枝岐線、九才峠が地区外へ通じる道路であり、玄関となっています。山間地・豪雪地特有の共同共存の豊かな文化があるものの、災害等で孤立化も懸念される地域となっています。

山間地特有の気候と豊富な雪や飯豊連峰を水源とする清流は、豊かな農林水産物を生み出し、農業と林業、そして観光業へと発展してまいりました。

近年、少子高齢化が進み、地区の産業（農業、林業）の担い手が減少する中で、山林や農地の利用について、維持し守るためには、ゾーニングが必要となってきました。また、伝統ある地域資源を観光資源として生かす取り組みも重要であり、ゾーン・拠点づくりも必要です。

将来にわたり、中津川地域の暮らしを守り、自然環境を守るために、行政と協同でしっかりした土地利用計画を策定し、活動の具体化を図っていきます。

## 【土地利用ゾーニング】



## 中 地 区

### ～ 3世代が暮らしやすい地域づくり ～

#### 【2030年の将来像】

中地区を代表する景観である「田園散居集落」は農村の営みのなかで長い間、守り育て・受け継がれた貴重な景観財産です。その歴史と誇りある伝統文化、そして人と人の絆を次世代へと継承し、自主防災組織体制を機能させ、安心して3世代が暮らしやすい地域をつくりまします。



#### 【地区の概要データ】

(令和2年4月1日時点)

人口 男450・女439 計889 世帯数272 集落数6 高齢化率34%

#### 【現状と課題】

- ・ 少子高齢化が顕著であり、単身高齢及び高齢者のみの世帯が増加。高齢者は運転免許返納後の交通手段がない。
- ・ 冬期間の雪対策や、ハザードマップの活用、集落ごとの自主防災組織体制の連携が必要となってきた。
- ・ 若者については地区外で働くものが多く、基幹産業である農業の後継者が不足しつつある。
- ・ 徐々に増加している「空家」は今後重要な課題となっている反面、地域内に地域住民が集える拠点としての活用が課題となっている。
- ・ 子どもたちの「遊び方」も様変わりするなか、防犯を含め安心して遊べる遊び場が少ない。

#### 【地区の資源・宝物】

昔ながら受け継がれている文化、祭りや建造物が多数存在しており、雄大な自然、美しい風景は心和ます財産といえる。

天養寺観音堂、散居集落風景、中村原、若宮八幡神社、土壇、中獅子踊り、八幡堂神社、豊中稲荷神社、ホトケヤマ、水道発祥の地、酒造会社、天然のコブシ

伝統的な食文化、季節行事、わらべうた、方言、郷土誌「ででぼっぼ」、高齢者の知恵

#### 【地区の将来像を実現するための重点事業】

事業概要	第4次総合計画との関係	地区の役割	行政の役割	場所
集落ごとの自主防災組織体制の連携事業 (SDGs: 11、13、17)	発展	中地区独自の訓練の実施	連絡体制構築とハザードマップを活用したハード事業	中全体
三世代で楽しめる憩いの場、サイクリングロード(歩道)づくり事業 (SDGs: 3、4、5、11、16)	新規	定期的な環境整備町のモデルコース	中村原排水整備、安全確保(標識、ライン設置)	サイクリングロード 中村原周辺

雪問題への取り組み事業 (SDGs: 11、13、16、17)	発展	若宮除雪隊の 継承	除雪負担の軽減	中地区全体
酒造り文化を中心としたグルメ の発信事業 (SDGs: 8、11、12、15)	新規	直売所などの気軽 に集える場所の整備・Uターン者へ の情報提供	ふるさと納税の活 用、観光連携	若乃井酒造 周辺

## 【アクションプラン】

アクションプランのテーマ・内容	第4次 総合計画 との関係	実施時期	実施主体
1. 防災で安心な中地区	継続	令和3～7年度	中区協議会、各地区、 消防組織、民生委員
各地区で組織された自主防災組織を中区で集約させ連携機能させていく。 ハザードマップを活用して危険個所の整備を推進させていく。			
2. 中村原を憩いの場に	新規	令和3～7年度	中区協議会、体協 子ども育成会 青年会・消防 防犯・交通安全
中村夏祭りの発展 憩いの場づくり(サッカーゴールの設置・遊具の設置・広場の整備) 各地区対抗 レクリエーション大会の開催(住民の情報交流) サイクリングロードの提案(ゆり園～天養寺観音堂～ホトケ山～若乃井～中村原)			
3. 住民の絆を	継続	令和3～7年度	中区協議会、老人会 青年会・婦人会 新規実行委員会 民生委員
住民の情報共有(会報の充実) 独身者への仲人 Uターン者、Uターン者との交流 お年寄りの交流の場(ほのぼのサロンの充実) 交通手段のない人への援助(ワンコインカー)			
4. 田園散居集落の景観保全里山整備と山 桜の植樹	継続	令和3～7年度	中区協議会 環境保全組織 子ども育成会 ホテル部会
天養寺観音堂周辺、ホトケ山展望台、農村公園、若宮八幡神社(社叢)を保全し、後世に引き継ぐ取組み (ホトケ山展望台の草刈り、農村公園の整備)、観光案内看板の設置 ホテルを復活させよう(生育調査、先進地視察、ホテルマップの見直し、PR活動、周辺整備) ガイド、観光案内人の配置とNPO法人運営 保全屋敷林の地区指定に向けた活動への協力			

5. 雪問題の取り組み	継続	令和3～7年度	中区協議会 若宮除雪隊 民生委員
若宮除雪隊の継承 オペレーターの育成			
6. “農”で作る“生きがい”を	新規	令和8～12年度	中区協議会 農業法人・農業組織
農のある暮らし、畑で取れた作物の活用(年寄りの生きがい・食文化の継承) 水を利用した作物で特産品づくり(クレソン、セリ、ワサビ等) 農業法人が運営する直売所の整備			
7. 酒造り文化を中心としたグルメの発信	新規	令和8～12年度	中区協議会 酒造会社 農業組織
酒造会社周辺に直売所やカフェ(気軽に集える場所・Iターン者への情報提供) 酒造り文化を県内外へ発信し、地域が潤う仕組みづくり 名産品とのコラボ商品開発(酒粕商品・アスパラ等セット商品、ふるさと納税の活用)			

**【地区間連携事業】**

事業概要	連携地区	当該地区の役割
サイクリングロードの提案 (ゆり園～天養寺観音堂～ホトケ山～若乃井～中村原)	萩生地区、 黒沢地区等	連携事業の開催 レンタサイクルの活用、 マップ作成
ホテルの生育調査、先進地視察、ホテルマップの見直し、PR活動、周辺整備	手ノ子地区等	先進地視察、連携事業の開催

**【地区の土地利用の基本的な考え方】**

中地区は田園の中に家々が点在しており、家屋の北西側には杉の屋敷林が植えられています。この屋敷林は、夏の強い日差しを遮り、冬の厳しい北西風を防ぐために植えられました。枝は燃料となり、大木となった杉の木は、家屋の材木に使われました。先代たちは、北国の厳しい環境の中で、知恵を働かせ、きわめて合理的でエコな生活をしていました。

また、朝日連峰を水源とする清水は農業に適し、山王原では藩政時代から開拓が進められるなど野川より取水する水路整備が進められました。先代の想いは総合開拓パイロット事業へ受け継がれ、近代農業の確立と地域農業を発展させました。

近年、生活の多様化が進む中、先代から受け継がれている文化・祭りや建造物を将来にわたり守り継承させなければなりません。農のある暮らしを子ども達に伝え、田園散居集落を守るために他地区とも連携し行政と協同で環境保全と伝統文化の継承に取り組んでいきます。そのためには土地利用計画による保全が必要です。



【土地利用ゾーニング】

**里山整備と景観保全**

- 山桜の植樹
- 田園散居集落風景
- 天眞寺観音堂 展望台
- 土壇

**防災で安全な中地区**

- 若宮八幡神社
- 清らかな水源
- 若乃井酒造
- グルメの発信 気軽に集える場
- 水道発祥の地
- 観光案内 看板の設置
- 中地区全体の自主防災体制 若宮除雪隊の継承

**中村原を憩いの場へ**

- ① 中獅子踊り
- ② サイクリングロード・歩道の整備
- ③ 3世代の交流の場 子ども達の遊び場
- ④ 中村祭り
- ⑤ 観光案内 看板の設置
- ⑥ JA カントリー

① ② ③ ④ ⑤ ⑥

## 萩生地区

### 最先端科学技術・産業と調和する伝統と景観のまち

#### 【2030年の将来像】

- ① 地域コミュニティが活性化し、和やかな活気ある地域
- ② 最先端科学技術が地域に溶け込み、子どもの未来を育む地域
- ③ 歴史と伝統と文化・屋敷林のある田園散居村を育む地域



#### 【地区の概要データ】

(令和2年4月1日時点)

人口 男776・女811 計1,587 世帯数531 集落数8 高齢化率31%

#### 【現状と課題】

1. 「地域コミュニティ」・「世代間交流」の活性化(誰もが暮らしやすい環境づくり)
2. 人口減少、少子・高齢化対策
3. 新たな定住人口増に資する住環境整備
4. 町内利用を促進する商業施設の活性化
5. 萩生城址公園周辺環境整備の再検証
6. 全集落の自主防災会の更なる機能強化

#### 【地区の資源・宝物】

小学校(子ども) 飯豊町起業支援施設 専門職大学 スロービレッジ エルベ 萩生駅  
 荒獅子まつり(神輿渡御行列) 子ども神輿祭り 萩生城址公園と桜 萩生石箱遺跡  
 神社・仏閣 どんでん平ゆり園と桜 屋敷林のある田園散居集落 萩生川(水源の溪流)  
 星空(天文台) 自然 水 空気 蛍 のどかさ お米 こくわ オカヒジキ  
 ひょう 炭焼き名人 地域の先生 隣組制度

#### 【地区の将来像を実現するための重点事業】

事業概要	第4次総合計画との関係	地区の役割	行政の役割
1. 計画されたプランの着実な実行を推進するプロジェクト(SDGs:17)	新規	実行組織として、以下の事業に関する部会等を設置する。	協議会の要請に応じて参加し、指導助言を行う。
2. 最先端科学技術・産業と専門職大学を核としたまちづくりプロジェクト(SDGs:4、7、8、9、11、17)	新規	企画に対し、関係者の賛同を得、会議を主催	

3. 商業施設の在り方に関するプロジェクト (SDGs:8、10、11、12)	発展	企画に対し、関係者の賛同を得、会議を主催	協議会の要請に応じて参加し、指導助言を行う。
4. 宅地分譲地・集合住宅建設に関する開発促進プロジェクト (SDGs:11、12)	新規	土地所有者と協議し土地利用計画(構想)に基づき協議	
5. 歴史・伝統・文化や観光を重視した環境整備と歴史探索プロジェクト (SDGs:1、2、3、4、11、15)	発展	部会にて計画を検証、練り直し、歴史も探る	
6. 道路に関する要望強化推進プロジェクト (SDGs:10、11)	新規	改善が見えない事項に付き、協議会から要望書の提出を模索	
7. 小規模集落の機能強化促進プロジェクト (SDGs:3、11)	新規	二集落の自主防災組織設立に向け協議会で支援	

【アクションプラン】

アクションプランのテーマ・内容	第4次総合計画との関係	実施時期	実施主体
1. 最優先 計画されたプランの着実な実行を図る、推進組織体制の確立 (SDGs:17)	新規	令和3～7年度 (重点時期3～5年度)	萩生区協議会
計画に上がったプランは、今後の萩生地区を描いたもの。地区民や関係団体が協力して推進組織を運営する ・実行組織として、以下の事業に部会等を組織して展開			
2. デンソー山形・飯豊町起業支援施設・専門職大学を見据えたまちづくり (SDGs:7、8、9、11、17)	新規	令和3～7年度 (重点時期3～5年度)	萩生区協議会
企業、飯豊町起業支援施設、専門職大学の存在は、雇用を生み住みやすいまちとなる。「子ども達の未来に繋ぐ教育」を地域・企業・大学・行政が連携し推進する。 ・専門職大学を想定した住環境整備(空き家利用のシェアハウス、高齢者と学生の協働生活) ・地域が率先し、防災用蓄電池を家庭や企業にモニターとして活用できないか提案。			
3. 地域住民が願う商業施設等の在り方検討 (SDGs:10、11、12)	発展	令和3～7年度	萩生区協議会
商業施設の活性化の為、住民(特に女性の声)と事業者の協議の場を設け、今後の在り方を検討。 ・デンソー山形・飯豊町起業支援施設・専門職大学を視野に入れる。 ・地元食材を加工し商品化をめざす。 ・通信設備のあるコインランドリー併設			
4. 人口減少ストップのもとに、宅地分譲地や集合住宅建設の開発促進を目指す (SDGs:4、9、11、12)	新規	令和3～7年度 (重点時期3～5年度)	萩生区協議会
土地利用計画(構想)を策定し、居住・商業・工業・農業・学園等のゾーニングを想定する。 ・萩生の農村景観が損なわれない秩序ある開発 ・新たな分譲住宅団地や集合住宅建設にあたっては、可能な限り民間のフリー開発を推進する。			
5. 歴史、伝統、文化(城址公園・石箱遺跡・神社・仏閣)や観光(ゆり園・散居集落)を重視した環境整備 (SDGs:4、11、12、15)	発展	令和3～12年度	萩生区協議会
第4次総合計画で地区住民総意のもとで計画した萩生城址周辺環境整備、再検証しながら要望活動を行う。 ・萩生の歴史を辿りながら地域を知る調査を行い記録に残す。それを環境整備に生かす。 ・神輿渡御行列や荒獅子祭り、子ども神輿祭り等、神社・仏閣を含め観光面でも大きくPRする。 ・萩生の宝である「ゆり園」その周辺に、春から秋まで花を咲かせオールシーズン利用出来る施設にし、直売や地元食材を加工した商品を販売する。			

6. 主要地方道・県道・町道等の整備要望活動を強化推進 (SDGs : 1、10、11)	新規	令和3～12年度	萩生区協議会
重要なライフラインである地域内道路の要整備箇所について、地域づくり座談会はもとより関係諸団体と調整しながら、所轄官庁に対し要望活動を積極的に展開するとともに早期実現を図る。 ・通学路の歩道整備と防雪柵、道路改良、信号設置等			
7. 存続が危ぶまれる小規模集落、持続可能を旗にあらゆる知恵を出し合い地域を守る (SDGs : 3、11)	新規	令和3～7年度	萩生区協議会
世帯数の減少や人口減少、そして高齢化率が高い。その改善策の糸口を見つけるため、総合的な観点から調査し研究を進める。 ・自主防災未組織地域に対し、組織化に向けて積極的な支援をする ・全地域に自主防災組織が確立したら、行政機関の協力を得て萩生地区防災訓練を行う			
以降のアクションプランは、中部地区まちづくりセンター内に設ける「まちづくり委員」(専門部会)が企画運営を行う。			
8. 地場産業の活性化を図り、雇用の拡充を目指す (SDGs : 2、6、7、8、9、12)	発展	令和3～12年度	萩生区協議会 まちづくりセンター 中部3地区共通
農業・林業・畜産業・商業・建設業・工業・介護施設等の活性化を図るため関係者の皆さんに雇用の拡大の方策を探る。身近な場所から、新鮮で、より安価な農産物を得ることができる地産地消。さらに発展させる。			
9. 美しいまちを醸し出す農村景観を維持し、おもてなしの見える、暮らしやすい地域づくり (SDGs : 2、4、8)	発展	令和3～12年度	萩生区協議会 まちづくりセンター 中部3地区共通
地域コミュニティ、SNS等々を活用し、豊かな人と人との支え合いの和を大切にします。 ・郷土料理の継承を通して、他所からくる人々におもてなしの見えるまちづくり ・美しく新鮮で、より安価な農産物を得ることができる地産地消を更に発展			
10. 高齢者の培った技術を伝承し、高齢者によりそうまちづくり (SDGs : 1、5、10、11)	発展	令和3～12年度	萩生区協議会 まちづくりセンター 中部3地区共通
高齢者だけの世帯や高齢者の一人世帯が多くなり、暮らしをとおして悩みや不安を抱える高齢者が多くなっている。そこに対応していくためにどんな施策が必要か調査し、行政に提案します。 ・除雪や移動支援・ひとり住まい・災害時の対応・子どもとの交流(昔語り、郷土料理、藁細工) ・隣近所のコミュニティを活性化・低家賃で住める高齢者集合住宅や高齢者シェアハウス、高齢者と若者の共同生活等の調査・研究を進める			
11. 農業や林業、園芸に従事する後継者育成を目指す (SDGs : 6、8、9、12)	新規	令和3～12年度	萩生区協議会 まちづくりセンター 中部3地区共通
耕作放棄地及び休耕田、山林の荒廃が増加し、農林業の多面的機能が失われつつあります。そのため子どもたちが希望を持てる農業の姿を描き実践すると共に、後継者の育成に資するAIやITの活用を研究する組織を確立します。 ・都市住民との交流(米作り体験や園芸体験ができる農園を確立) ・地場産農産物として増量を図るとともに、品質管理や販路拡大の方策、また6次産業化Iターン及びUターン者を積極的に受け入れる			
12. 毎日が安心して暮らせる地域コミュニティの醸成と、互助活動の積極的推進 (SDGs : 1、10)	新規	令和3～12年度	萩生区協議会 まちづくりセンター 中部3地区共通
コミュニティが希薄になっている今日、改めて隣近所からコミュニティを形成し、「誰ひとり取り残さない」を基本におき、お互いに気軽に声を掛け合いそして助け合い、安心して暮らせるまちを目指す ・子ども達や高齢者が困っている場面に遭遇した時は、躊躇なく手助けできる気運を醸成する			

13. 「結婚を希望する人たち」支援の輪を広げる (SDGs: 1、10)	新規	令和3～12年度	萩生区協議会 まちづくりセンター 中部3地区共通
結婚を希望する若年層や中年層が大勢存在する。地域、企業、行政と連携しサポート体制を確立する(人口減少問題に寄与し、地域の賑わいづくりへ) ・仲人役を組織化 ・地域の独身層への声掛け			
14. 他所から人を呼び込み、誰もが子育てしやすいまちを目指す (SDGs: 3、4、5)	新規	令和3～12年度	萩生区協議会 まちづくりセンター 中部3地区共通
若者が定住できるまちづくりについて、若者と意見交換する場を設け、誰もが子育てしやすいまち実現に向けて調整し、提案する ・年齢を問わず交流できる環境づくりを進める ・子ども達が、安全・安心に遊べる遊び場について地区内を調査・設置の要望活動 ・無医療地区の解消 ・今までの企業・大学交流で出された提案の検証			

【地区間連携事業】

事業概要	連携地区	当該地区の役割
ゆり園周辺に、多くの桜を植栽するとともに、近隣地区と協力しあいながら桜回廊づくりを目指し、更に桜サイクリングロードで3地区をつなぐ。 (SDGs: 4、11、16)	萩生地区 中地区 黒沢地区	
屋敷林の維持保全に関し3地区及び関係団体、行政と協力し推進する。 (SDGs: 4、6、15)		
中津川発祥の水仙ロードを町内、全てでつなぐ。 (SDGs: 4、11、14、16)	町内全ての地区	

【地区の土地利用の基本的な考え方】

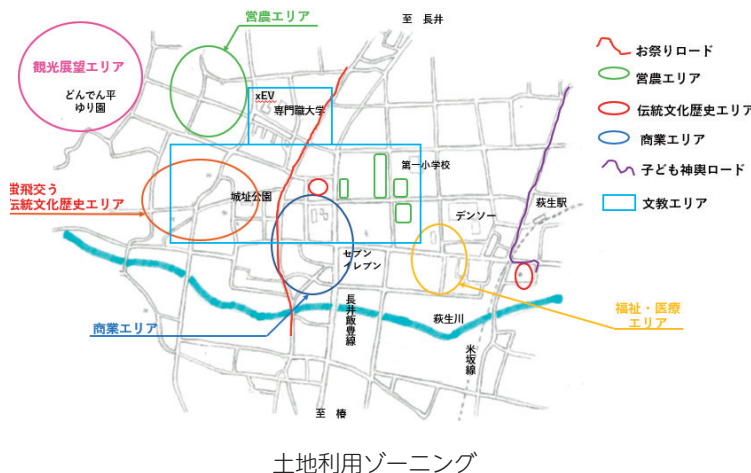
飯豊町は「日本一美しい日本の村景観コンテスト」で農林水産大臣賞を受けた集落。その北部に位置する萩生はその中でも屋敷林に囲まれた住居が点在する田園散居集落です。人口も町全体の25%を占め、スーパー・コンビニ・銀行・ホテル等が主要地方道沿いの中心地に集まっています。

最近、大型工場の規模拡大・飯豊町起業支援施設それに付随して専門職大学や集合住宅等が計画されて田園に囲まれた複合的でコンパクトな街になりつつあります。萩生は田園景観と文化を生かし、最先端科学技術と共存した地域を目指し、その為に保全・育成すべき田園・森林ゾーン、伝統・文化・歴史ゾーンを明確にし、伝統文化と田園風景を「将来の子ども達のため」継承していきます。

更に最先端科学技術と共存し、新しい田園文化と経済の創造と発展のための文教、交流・商業、産業、新規居住ゾーンを確定していきます。

以上の伝統文化・田園景観と調和し、新たな教育・産業・交流振興の融和した土地利用を地域住民の参加のもとに確定し、的確で公正な事業を行政との協働のもとに誘導し、計画的で民主的公正な土地利用を進めていきます。

また、萩生の人々が安心し快適に楽しく生活できる利便性・安全性・快適性のある施設配置、道づくり等の公共施設のネットワーク化を計画的に図ります。



## 黒沢地区

### 未来に繋がる種を蒔く

#### ～世代を越えて、としよりからおぼごまでおもしろい黒沢～

##### 【2030年の将来像】

子どもからお年寄りまで自然豊かな黒沢でいつまでも笑って暮らせる。

世代間でお互いの大変なところを支え合える、思いやりあふれる黒沢。



##### 【地区の概要データ】

(令和2年4月1日時点)

人口 男251・女263 計514 世帯数174 集落数9 高齢化率41%

##### 【現状と課題】

1. 人口減少問題による地域交流の衰退  
→働き方などのライフスタイルの変化により、少子高齢化が顕著。結果としてにぎわいがなくなり空き家・商店の消滅。地域の衰退につながる。
2. 誇りある田園風景の維持困難  
→農業を営む人も高齢化しており、農地維持管理の限界が近い。維持管理ができないと水害につながり、災害による地域資源の消失が懸念される。

##### 【地区の資源・宝物】

スワンパーク・叶で～る・高伝寺・西山・田んぼ・屋敷林・獅子舞・いきいきサロン・公民館のつどい・渡邊六郎兵衛家住宅長屋門

【山麓から地区の中心を流れ、白川に注ぐ萩生川。それを囲む田園環境】

##### 【地区の将来像を実現するための重点事業】

事業概要	地区の役割	行政の役割
黒沢研修センターを拠点とした各種事業の展開 【人との繋がり】	マルシェ、レク大会の実施など 事業展開	—

考古学講座の開催による黒沢の歴史の学びと宝 【伝統継承】	現地調査による 地域資源の発掘	学芸員の派遣
萩生川さくらロードの整備・西山の山道づくりからの里山保全 【環境保全】	西山の保全活 動・さくらロー ドの整備	保全活動への支 援

## 【アクションプラン】

アクションプランのテーマ・内容	実施時期	実施主体
1. 交流によるにぎわいづくり【人との繋がり】	令和3～12年度	地区協議会・ 体育協会
<p>年1回開催される黒沢レク大会で世代間の交流・地区ごとの交流は実施している状況である。しかし参加者が毎年ほぼ一緒など課題もある。焼き肉、夏のビアガーデン等、違うイベントも企画して様々な人が集まりやすいようにする。</p> <p>黒沢でのゲートボール大会・グラウンドゴルフ大会の実施継続により、多くの子どもからお年寄りまで参加できる交流事業を展開していく。</p> <p>家庭菜園をしている人が多く、近くの人におすそ分けしている方が大勢いる。そこで朝市(野菜マルシェ)を黒沢研修センター前で開催し、生産者と購買者の交流の場として活用し、にぎわいを復活させる(所得を得ることでの生きがいつくりにも繋がる)。</p>		
2. 助け合いによる安心で住みよい地域づくり【人との繋がり】	令和3～12年度	地区協議会・ 地区防災組織
<p>高齢者宅の除雪は地区にある機械で実施をしている状況である。</p> <p>近年は災害の発生回数・規模も大きくなっているので地域自主防災組織の設立を推進する。すでに設立している地域については、組織体制の見直し強化を図り、災害に備えた地域づくりを推進。</p>		
3. 伝統文化と行事の継承【伝統継承】	令和3～12年度	地区協議会
<p>第4次総合計画では獅子舞文化を次世代へ継続していくことを目標とした。</p> <p>第5次総合計画では伝承継承はもとより、映像での記録保存を実施する。(観光協会で実施済み、内容をより細かく)</p> <p>人口減少により伝統文化の継承が困難になっていることから、地区を統一した祭りのあり方の検証や、万が一途絶えた際に過去を基にすぐに再現できるようにする必要がある。</p> <p>黒沢独自の伝統野菜や伝統栽培方法を発掘し、次世代へとつなげる。未来につなげる種づくり。</p>		
4. 萩生川の河川環境保全による防災減災とさくらの里づくり 【環境保全】	令和3～12年度	地区協議会
<p>河川管理道路に桜を植栽し、萩生川さくらロードの整備を実施する(中津川地区の水仙ロードのような、地域間連携による花道づくり)</p> <p>萩生川は河川改修完了による防災減災が期待できる。地域での維持管理も必要。</p>		
5. 西山の山道づくりからの里山保全【環境保全】	令和3～12年度	地区協議会
<p>山麓から黒沢の中心を流れ、白川に注ぐ萩生川。それを囲む美しい田園景観を守るべく、より一層の西山の環境保全を推進する。</p>		
6. 黒沢の歴史ものがたり【伝統継承】	令和3～12年度	地区協議会
<p>黒沢には他に誇れる歴史的なものがある。それが、高伝寺と渡邊六郎兵衛家住宅長屋門である。</p> <p>歴史を振り返ることで黒沢にあるお宝の再発見をし、黒沢愛を深めることで、住民の活性化を促進する。</p> <p>また、学芸員の支援による文化財の特別公開や考古学講座の開催により、地域に人を呼び込み、にぎわいを再現する。</p>		

## 【地区間連携事業】

事業概要	連携地区	当該地区の役割
くろさわマルシェのスタンプラリー、移動販売	中・萩生地区	マルシェの場所提供
萩生川沿いのさくらロード	中・萩生地区	さくらロードマップ整備
黒沢歴史ものがたり	各地区	地区の歴史繋がり調査

## 【土地利用の考え方】

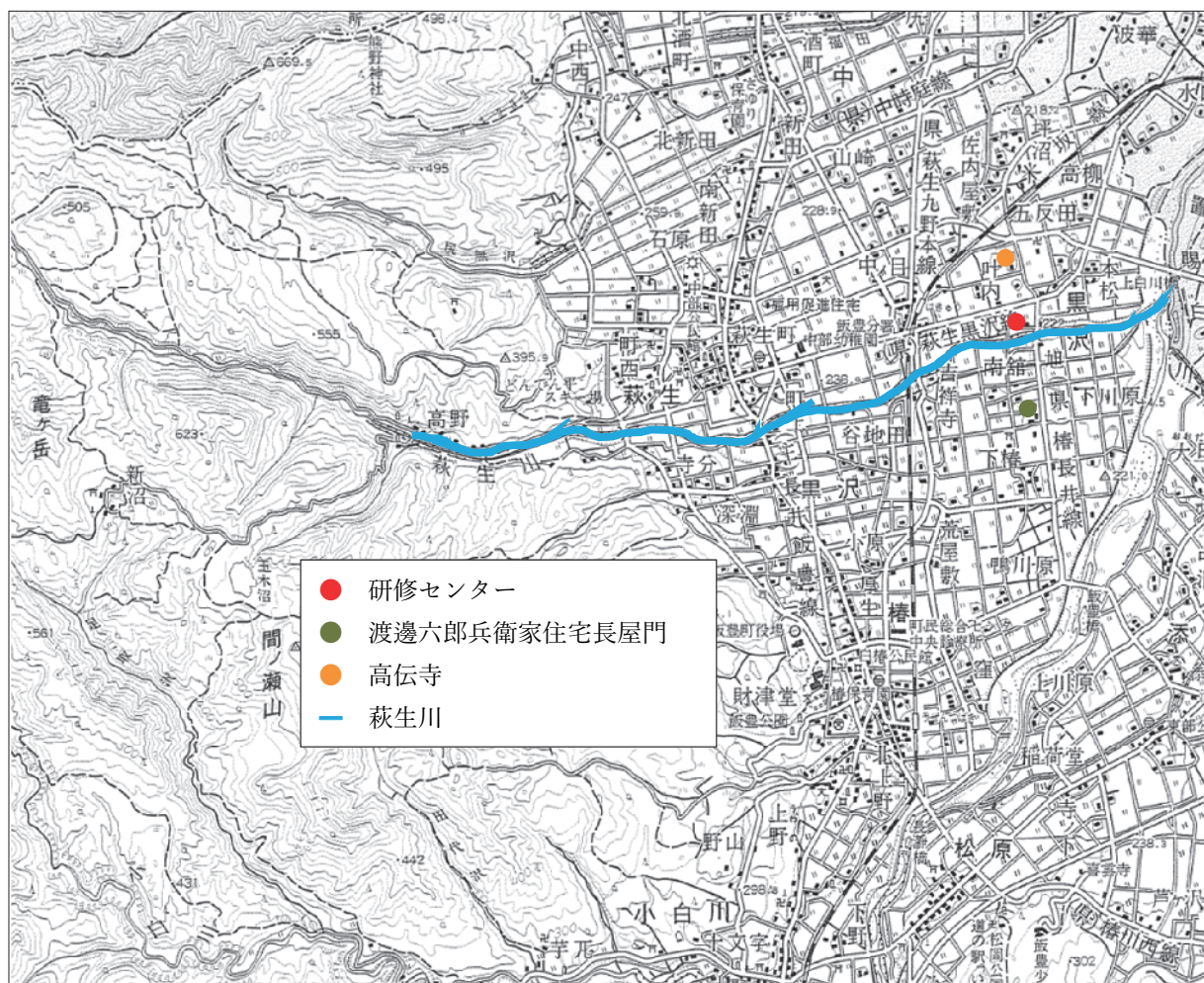
萩生川沿い → 環境保全活動の活動場所

黒沢研修センター → イベントの実施拠点

高伝寺、渡邊六郎兵衛家住宅長屋門 → 黒沢歴史ものがたりの重点部分



## 【土地利用ゾーニング】



萩生川沿い→環境保全活動の活動場所・さくらロードの整備

黒沢研修センター→イベントの実施拠点

高伝寺、渡邊六郎兵衛家住宅長屋門→黒沢歴史ものがたりの重点部分

## 樫 地 区

### ～ つながり つむぐ つばきの里で ～

#### 【2030年の将来像】

田園、散居集落、里山の景観、今も残る伝統・文化を絶やすことなく次世代へとつなぎ、地区民一人ひとりが安心して毎日を生き生きと過ごせる樫地区を作っていく。



#### 【地区の概要データ】

(令和2年4月1日時点)

人口 男552・女572 計1,124 世帯数378 集落数10 高齢化率32%

#### 【現状と課題】

- ・ 少子高齢化が加速する中で、地域間の連携や助け合いの仕組みづくりが急務となっている
- ・ 地域づくりの情報提供や組織団体間の交流が不十分である
- ・ 地区内の空き家の実態調査をする必要がある。移住・定住のための地区としてのキャパシティの調査を行い、積極的に空き家バンクなどを活用できる環境づくりを行う
- ・ 地区内の单身・高齢者世帯の調査を行い、買い物・除排雪・安否確認等の支援策を講じる必要がある
- ・ 若者や一部の人に任せきりとなっている地区の雰囲気を開くため、地区民全員が自分事としてまちづくりに関わる意識づくりを行う必要がある

#### 【地区の資源・宝物】

- ・ 多くの公共施設(役場・あ～す・小中学校など)、散居集落及び里山と白川流域の景観、歴史的寺社仏閣と建造物、旧飯豊中学校グラウンドの桜並木、高寺山(西山)、飯豊公園、樫味噌、念仏踊り、獅子舞、エコタウン樫、下樫地区の蔵のある町並み、松山家行屋、ホープ館、みんなこ家、若者向けシェアハウス、樫焼窯跡

#### 【地区の将来像を実現するための重点事業】

事業概要	第4次総合計画との関係	地区の役割	行政の役割	場所
区民会を中心とし、地区民どうしが支え合える地域づくりを行う 〔(仮称)支え合える地域づくりプロジェクト〕	新規	団体の設立	補助金など運営全般のバックアップ	樫地区内
区民会活動を支えるため、白樫地区まちづくりセンターの機能拡充	新規	全般	補助金など運営全般のバックアップ	樫地区内

## 【アクションプラン】

アクションプランのテーマ・内容	第4次総合計画との関係	実施時期	実施主体
1. 支え合える地域づくり	継続	令和3～12年度	①主体：椿区民会、自治会長会 ②支援：白椿地区まちづくりセンター
<p>交流を生み、人と人が支え合える、笑顔あふれる地区づくりを推進します。</p> <p>(1)支え合える組織づくり</p> <p>【いつまでに】 令和5年度まで</p> <p>【なにをするか】</p> <p>①令和5年度までに「(仮称)支え合える地域づくりプロジェクト」をつくり、町社会福祉協議会地域支え合い推進員の協力を得ながら組織化を図る</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>必要な支えや見守りなどの課題を見い出すためのワークショップやアンケート調査を実施</li> <li>その結果を踏まえて組織・事業を検討</li> </ul> <p>②高齢者から子どもまでを見守り、令和6年度から「(仮称)支え合える地域づくりプロジェクト」事業の着手</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>区民会を主体とした除雪ボランティア、買物支援、もってんか運動(ゴミ出し支援)、安否確認、何でもしますボランティア(有償)、サロン等の交流事業の実施 など</li> </ul>			
2. 伝統文化をつなぐために	継続	令和3～12年度	①主体：椿区民会、自治会長会 ②支援：白椿地区まちづくりセンター
<p>椿の先人たちが築き守り続けてきた伝統や文化を、絶やすことなく次世代へとつなぎます。</p> <p>(1)椿の歴史文化、伝統行事をつなぎ、広めていくための事業の実施</p> <p>【いつまでに】 令和7年度まで</p> <p>【なにをするか】</p> <p>①「(仮称)椿の伝統・文化をつなぐプロジェクト」を組織し、課題解決方法を組み立てる</p> <p>②椿が形成された歴史・地形・風土的根拠、食文化等を発見・学び、椿で生活することの意義と価値を認識する</p> <p>③飯豊史話会と協力し歴史文化勉強会を開催し、地区民全員が地区の成り立ちを知る</p> <p>④伝統・文化を継承し学びながら、保育園、小学校、中学校と連携し、後継者の育成を図る</p> <p>⑤地区外に活動フィールドを広げ、地区の伝統・文化を発信し、「(仮称)椿の伝統・文化をつなぐプロジェクト」参加者を増やす</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>地区間での散居集落の景観を維持するための活動や活用法を考える活動</li> <li>高寺山(西山)などを活用したクアオルトツアーなどの企画運営</li> <li>椿の伝統的食文化を生かしたグルメツアーの企画 など</li> </ul>			

3. 老若男女がにぎわい出会える集いづくり	新規	令和3～12年度	①主体：樺区民会、自治会長会 ②支援：白樺地区まちづくりセンター
<p>にぎわいに溢れ、活力ある地区づくりを推進します。  (1) 樺全体のにぎわいの創出と地域の活性化につながる組織づくり  【いつまでに】 令和4年度まで  【なにをするか】</p> <p>①区民会、自治会長、青年会、女性グループ、NPO、商店会、白樺地区まちづくりセンターなどを構成主体とする「(仮称)樺地区地域活性化プロジェクト」を立ち上げる。地区全体の多様な地域課題の抽出とそれらの解決に取り組むための検討組織とし、②～⑤に掲げる各検討部会を統括する。</p> <p>②羽前樺駅前にぎわい通り再興活動  ・にぎわい通りの再興のために、区民会や地元企業、関係者を構成主体とする「(仮称)樺駅前にぎわいづくり検討部会」を設置。樺の玄関口として、旧山口医院跡地や農協倉庫を有効活用できる計画づくりや整備を促進するための検討組織づくりを行う</p> <p>③多くの教育文化施設を有する地区として、生活を豊かにする総合向学交流施設の要望の取り組み  ・区民会や関係団体を構成主体とする「(仮称)総合向学施設整備検討部会」を設置。現状について調査するとともに、地区民だけでなく町民にとって必要な施設を、具体的に提案し整備を要望する取り組みを行う  ・部会活動として「公共施設整備に関するワークショップ」「先進地視察」「アンケート調査」などを行う</p> <p>④屋内スポーツ施設整備のための機運づくりの取り組み  ・区民会や関係団体を構成主体とする「(仮称)スポーツ施設整備検討部会」を設置。現状について調査するとともに、地区民だけでなく町民にとって必要な施設を、具体的に提案し整備を要望する取り組みを行う  ・部会活動として「スポーツ施設整備に関するワークショップ」「先進地視察」「アンケート調査」などを行う</p> <p>⑤古民家や空き家を活用した「若者の集いの場」をつくる機運づくり  ・区民会や関係団体、地区の若者を構成主体とする「(仮称)樺地区地域活性化検討部会」を設置。現状について調査するとともに、地区の若者にとって必要な施設の整備を検討  ・プロジェクトの活動として「空き家を活用したにぎわいづくりワークショップ」「先進地視察」「アンケート調査」などを行う</p>			
4. 安心して生活するために	新規	令和3～12年度	①主体：樺区民会、自治会長会 ②支援：白樺地区まちづくりセンター、町
<p>地区民一人ひとりが安心して暮らし続けられる基盤をつくります。  (1) 商業施設の創出や防災対策を充実させ樺全体の安心安全を育む  【いつまでに】 令和3～12年度  【なにをするか】</p> <p>①「(仮称)つばきの里安心プロジェクト」の組織化</p> <p>②課題発見・解決方法の組み立て  ・ホープ館等の販売内容拡充や移動販売の充実など、今ある資源を見直し、高齢者も利用しやすく、かつ、人のつながりが生まれる買物空間を創設する  ・遊び場(郡之神公園等)を安全に利用できるよう維持管理をおこない、季節ごとの自然が楽しめるような環境づくりをおこなう  ・樺地区内の自主防災組織率100%を達成し、初期消火訓練・反射材・防犯灯といった防犯対策を充実させる。また、中学生の下校時の安全対策のため、安心して待つことができる居場所づくりを目指す</p> <p>③子育て世帯から高齢者世帯まで、すべての世代に分かりやすく周知する</p>			

5. 椿の美しい景観を守るために	新規	令和3～12年度	①主体：椿区民会、自治会長会 ②支援：白椿地区まちづくりセンター、町
<p>失ったら二度と取り戻せない椿の景観を守り育み、次世代へとつなぎます。</p> <p>(1) 椿の景観を今後も維持していくための活動</p> <p>【いつまでに】 令和7年度まで</p> <p>【なにをするか】</p> <p>①「(仮称)椿の景観を考えるプロジェクト」の組織化</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 椿地区の「残したい景観」をテーマにした写真コンクールを行い、椿の景観の魅力を再認識する</li> <li>・ 「景観保護委員」という役割を設け、年数回会議を開催し、どのように景観を維持していくか(NPOなどの外部機関に委託するなど)を決定する</li> </ul> <p>②「椿地区散策案内板」・「椿地区散策ガイド」の作成</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 写真コンクールの結果を踏まえ、案内板に表示する項目を決定し、NPOや関係機関と連携しながら案内板を作成する</li> <li>・ 椿地区の史跡をたどるモデルルートを掲載した散策ガイドを作成する</li> </ul> <p>③旧飯豊中学校グラウンドの桜並木および関連施設の整備</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 通路の整備はほぼ完了しているので、管理運営方法を検討し決定する</li> <li>・ 花見の時節にライトアップを実施し、椿地区を通過する人たちにも鑑賞してもらう</li> <li>・ 桜以外に、斜面を使った植栽も検討する</li> </ul>			

**【地区間連携事業】**

事業概要	連携地区	当該地区の役割
白椿地区公民館の改修	小白川地区	町への働きかけ
地区の資源を組み合わせた観光ツアーの企画運営	小白川地区	連携の推進
田園散居集落を維持するための環境整備活動	萩生地区、黒沢地区、東部地区、小白川地区	連携の推進

**【地区の土地利用の基本的な考え方】**

基本的には、現状の土地利用計画図を基に考え、商業施設（買い物空間）を考慮した時、適地はどの辺りか検討する。

椿地区の美しい景観を維持していくために、地区民自身が危険な空き家や耕作放棄地を作らないよう努める。

## 小白川地区

### 住みたくなるまち 天狗の里 小白川

#### 【2030年の将来像】

- ・やまがた百名山に選定され、来訪客が増加しつつある地域の宝「天狗山」の魅力を改めて見つめ直し、地区民はもとより、来訪客との交流など地域内外の人々が集い、語り合える交流拠点を整備し、それを核とした地域活性化を目指す。「天狗のように鼻高々と誇れる地域」に！
- ・子ども獅子の育成など伝統芸能の継承に注力し、次世代へ大切につないでいく。
- ・地域に暮らす人々が、支え合いながら健康で安心して暮らせる地域をつくる。



#### 【地区の概要データ】

(令和2年4月1日時点)

人口 男271・女267 計538 世帯数161 集落数7 高齢化率39%

#### 【現状と課題】

- 暮らしへの支援が不足しており不安を感じている
  - ・ 除雪への不安
  - ・ 買い物する場所が少なくなった
- 活気、にぎわいがなくなってきている
  - ・ 地域内の交流機会の減少
  - ・ 人口減少
- 道路・隘路問題
  - ・ 県道長井飯豊線の隘路解消
- 獣害問題(クマ、イノシシ)

#### 【地区の資源・宝物】

- ・ 天狗山(やまがた百名山)
- ・ 獅子まつり
- ・ スポーツを通じた地域の団結
- ・ 小白川神社
- ・ 豊かな森林
- ・ 広大な畑地(野山)
- ・ 子どもたち
- ・ 第二小学校
- ・ 水

## 【地区の将来像を実現するための重点事業】

事業概要	第4次 総合計画 との関係	地区の役割	行政の役割	場所
みんなが集う拠点づくり ・ 小白川地区公民館を中心とした拠点づくり、機能拡充 ・ 天狗山を活用した地域活性化 ・ 桜の植樹 (SDGs: 11、15、17)	新規 継続	区民会や公民館を中心に体制・環境を整える。 郷土料理加工所の整備 天狗山案内人の育成	関係各部署とのパイプ役 外部への発信 「天狗山登山」をふるさと納税体験型返礼品に設定	小白川地区 公民館周辺 天狗山周辺
伝統芸能の継承 ・ 獅子まつり ・ 子ども獅子育成の継続 (SDGs: 11、17)	継続	獅子連を中心に子ども獅子の育成をする	情報発信	小白川神社 周辺
人とのつながりで安心した暮らし ・ 除雪体制を整える ・ 買い物支援 ・ 郷土料理づくり人の育成 (食事(弁当)の提供、レシピの開発、登山客など来訪者との交流など) (SDGs: 3、11)	新規	・ NPOとの連携 ・ 消防団・民生児童委員との連携 ・ スーパー等の調整とPR ・ 集落コンビニ	除雪対策への環境整備 移動販売への財政支援	小白川全域
健康づくりで寝たきり予防 ・ 軽スポーツの普及(体を動かす習慣づくり) ・ 運動教室の開催 ・ 地区民登山 ・ かんじきウォーク ・ 散策コース、サイクリングロードづくり (SDGs: 3、11、17)	新規	・ 体協やNPOとの連携 ・ 白樺地区公民館 ・ 奉賛会	講師派遣 情報提供、助言	小白川全域

## 【アクションプラン】

アクションプランのテーマ・内容	第4次 総合計画 との関係	実施時期	実施主体
1.【自分たちの手で誇れる地域をつくろう】 組織体制の構築	新規	令和3年度	小白川区民会 (仮)拠点づくりプロジェクト委員会
重点事業、アクションプランを実行し、魅力ある地域をつくるため、地域内組織体制について検証し、必要に応じて組織体制の見直しや構築を行う。			

2. 【みんなが集う拠点づくり】 天狗山を活用した地域活性化と交流促進	見直し	令和3～12年度	小白川区民会 (仮)拠点づくりプロジェクト委員会
拠点施設やその周辺の環境整備、登山マップルート調査・資源調査、登山道や看板等の維持管理、登山者の分析を行う。拠点施設は既存施設を活用し、直売や休憩所から試行する。地域産品を活用した加工場など必要に応じた改修、整備。			
3. 【みんなが集う拠点づくり】 天狗山登山や交流イベントの開催	継続・見直し	令和3～12年度	小白川区民会 (仮)拠点づくりプロジェクト委員会
地区民登山や地域外の方を対象とした登山イベント(山や森、文化を学びながら歩くイベント等)を開催する。また、日にち限定茶屋(仮)や交流の場を設け、登山者との交流を図り地域活性化に繋げる。地域住民が積極的に関わることにより郷土愛を育む。			
4. 【みんなが集う拠点づくり】 天狗山案内人の育成	新規	令和3～12年度	小白川区民会 (仮)拠点づくりプロジェクト委員会
天狗山や地域の勉強会をしながら、天狗山案内人を養成し、後世に語り継ぐ。			
5. 【伝統芸能の継承】 子ども獅子育成講座の備品・体制整備、 情報発信	継続	令和3～12年度	小白川獅子連
心の拠りどころとなっている伝統ある獅子舞文化を末永く守り伝えるため、子ども獅子育成講座の備品整備、人材の確認・確保、獅子雑学情報を共有する。 今の時代に合った練習方法と披露の場の提供、活動記録写真等。事業検証・活動記録は毎年度実施。			
6. 【にぎわい創出プロジェクト】 獅子まつりによるにぎわいづくり	新規	令和3～12年度	小白川区民会 小白川獅子連 (仮)にぎわい委員会
小白川出身で町外在住の方にダイレクトメールなどを送り、獅子まつりへの参加を呼び掛け、にぎわいの創出を図る。また、会場で子どもたちが楽しめるような雰囲気づくりをする。縁日、屋台、売店などを充実させる。			
7. 【人とのつながりで安心した暮らし】 除雪体制の整備	新規	令和3～12年度	(仮)くらし助け隊
NPOや消防団、民生児童委員と連携し、安心して生活できる除雪体制の基盤を整えていく。			
8. 【人とのつながりで安心した暮らし】 買い物支援	新規	令和3～12年度	小白川区民会 (仮)くらし助け隊
小売店が少なくなったため、移動販売車(食料品・日用品)を呼び込む。地域拠点の活用を模索する。訪問日等のスケジュール調整や地域の意見集約を実施。「地域通貨」の活用を検討する。			
9. 【健康づくりで寝たきり予防】 毎日できる体力・筋力づくり	新規	令和3～12年度	小白川区民会 ほのぼのサロン (仮)いきいき委員会
野山など地域の地形を活かしたウォーキングコースの設定など継続して運動できるしくみづくりを検討する。「日常の生活+α」自宅でもできる体力・筋力づくりに取り組む。また、天狗山への地区民登山やかんじきウォークなど地域資源を活用しながら楽しめるイベントを開催する。			



10. 【クマと共生するモデル地域づくり】 クマドッキリ作戦	新規	令和3～12年度	小白川区民会 (仮)くらし助け隊
小白川には豊かな森林があり、クマの出没が多い。住民が安心して暮らし続けるために、町や専門機関等の協力を得ながら、野生動物と共生できる仕組みを研究する。(長野県軽井沢町の事例「ベアドック」「学習放獣」や、「山際の地域でクマが寄り付きにくい作物を栽培」「山にクマの食べ物になる木を植える」など)			

### 【地区間連携事業】

事業概要	連携地区	当該地区の役割
ホタルの里づくり	中、萩生、椿、手ノ子地区	先進的な取組事例を参考に勉強会を立ち上げる。
天狗山マップ作成・資源発掘	椿地区	歴史文化の発掘と、次代へつなぐ資料作成
水仙ロード	手ノ子、椿地区	手ノ子、椿地区への働きかけ
白椿地区公民館の改修	椿地区	町への働きかけ
地区の資源を組み合わせた観光ツアーの企画運営	椿地区	連携の推進
田園散居集落を維持するための環境整備活動	萩生、黒沢、東部、椿地区	連携の推進

### 【地区の土地利用の基本的な考え方】

明治初期から昭和初期にかけ、多くの参拝客が遠方から天狗山を訪れ、小白川地区は、現在の一の鳥居付近を中心に旅館を始めとする様々な商店が立ち並び賑わいを見せていた。2019年に小白川地区のシンボルともいえる天狗山が「やまがた百名山」の選定を受けたことで、登山客の増加が見られることから地域活性化の糸口としたい。

地元食材を使った郷土料理加工所を作り、食を通して魅力を伝える。そして、料理の得意なおばあちゃん達の活躍の場をつくることで、女性の積極的な参画を促す。

また、獅子舞などの伝統文化は、古くから多くの地区民に愛され、地区外からの注目も高まってきている。将来的な文化継承に役立てるために、子ども獅子学習会の後押しを行い、地元出身者へPRチラシなどを配信するなど、まずは獅子舞ファン（関係人口）を増やしていく。ボランティアなどから協力・参加を促し、担い手不足解消・関係者の誇りにつながっていくような関係を築いていきたい。

以上のことから、地区の拠点小白川公民館周辺と考え、郷土料理加工施設や広場を活用した桜並木の植樹など、拠点を中心に町と連携を取りながら地域活性化を目指していく。

## 東部地区

### ～ここは ぼくらの イーデトープ（理想郷）～

#### 【2030年の将来像】

心安らぐ田園風景とあたたかな地域のつながりが、「住んで良かった」、「訪れて良かった」と実感できるまち。

- 丘陵地帯である眺山の豊かな里山と、白川が育む豊かな田園地帯を大切に守り育てていきます。また、みどり豊かに恵まれた住環境のなかで住民が豊かに安心して生活し、地域全体で子どもを守り育てる地域を目指します。
- 水芭蕉や桜回廊、松岡文殊堂、獅子舞などの豊かな地域資源を継承し、地域住民の連携と自主的な活動が、地域の伝統文化を守り、景観の保全や農林業の活性化を支える地域を目指します。
- 道の駅、しらさぎ荘、東山工業団地、バイオガス発電施設などの拠点が新たな産業と交流を生み出し、新たな賑わいと交流が創出する地域を目指します。



#### 【地区の概要データ】

（令和2年4月1日時点）

人口 男558・女614 計1,172 世帯数444 集落数9 高齢化率44%

#### 【現状と課題】

- 進学や就職による若者の流出などのほか、未婚者が増えつつあり、少子高齢化が進み、高齢者のみ世帯や単身世帯が増加している。人口や世帯数の減少により、地域や団体において個人が担う役割が増え、負担感が増してきている。
- 若者の定着が進まないことで子どもの数も減少し、小学校再編が協議されている。また、子どもが自由に遊ぶことができる公園等の施設が少ない。
- かつては多くあった商店も激減し、買い物は他市町のスーパーや大型店を利用している。一方で公共交通手段は限られ、高齢者は免許を返納すると日常生活にも不便をきたしている。
- 冬季間の雪対策の負担は大きく、地域の除雪支援の取り組みがあるが、管理不全の空き家も多く、地域の住環境の課題となっている。
- 地域の一大イベントである「添川温泉ふるさと温泉祭り」は開催時期や開催方法など、工夫や負担軽減を求める声がある。
- 地域の魅力や資源を再認識し、愛郷心を醸成するために自分達の地域を深く知る機会が必要。
- 若者や女性の意見を地域づくりや地区計画に反映させ、若者や女性が生き生きと活躍できる場の構築が求められている。

#### 【地区の資源・宝物】

眺山からの眺望景観、ながめやま牧場、米沢牛発祥の地、上代から川西への県道の桜並木、眺山の桜回廊、水芭蕉群、白川及び白川公園、松岡文殊堂、ビオトープ、東山工業団地、飯豊少年自然の家、道の駅、めざみの里観光物産館、国道113号など、交通の便が良い、添川小学校、添川児童センター、添川温泉、宿泊施設、添川住宅団地、添川温泉ふるさと祭り、アスパラガス、すがい肉屋の馬刺し、お米がおいしい、豊かな農地

## 【地区の将来像を実現するための重点事業】

事業概要	地区の役割	行政の役割
子育て世代も高齢者も安心快適に暮らせる地域	実行組織編成 計画と実行	財政援助 施設利用に係る支援 計画時・実行時におけるアド バイス
農業・観光・新産業による地域経済振興と地域活性化		
地域の文化振興と発信		

## 【アクションプラン】

アクションプランの概要	1. 子育て世代も高齢者も安心快適に暮らせる地域	
(詳細) 子どもたちとその親世代が集い、のびのびと遊びながら学力・体力を向上させることができる環境を構築します。また、高齢者が集い、仲間と安心して過ごせる場所を整備することで、高齢者の生活に楽しみと喜びを提供し、家族に安らぎの時間を提供します。		
アクションプラン①	実施時期	実施主体
しらすぎ荘と東部地区公民館・東部地区まちづくりセンターを中心に、子どもたちだけでも安心して遊べる施設や、親世代が気軽に集い子育ての情報交換と親同士のネットワークを構築できる場所を創設します。	令和3～12年度	地区長会 地区公民館・ まちづくりセンター
アクションプラン②	実施時期	実施主体
添川住宅団地を始めとして、地区に子育て世帯を呼び込むことで、地域の人口を増やすとともに子ども人口を増やし、学校や児童センターの存続や地域の賑わい再生を目指します。	令和3～12年度	地区長会
アクションプラン③	実施時期	実施主体
地区内の空き家を活用した低料金の喫茶団欒スペースの創設や、しらすぎ荘、東部地区公民館・東部地区まちづくりセンターと連携し、入浴と団欒スペース(必要に応じて軽食の提供)をセットにしたプランの提供など、高齢者が家にこもらず外に出て仲間との交流を持つことのできる環境を構築します。また、東部地区公民館・東部まちづくりセンターの更なる有効活用や分館のコミュニティスペースとしての活用について話し合い、地域の人達が集まる場づくりを進めます。	令和3～12年度	地区長会 地区公民館・ まちづくりセンター
アクションプラン④	実施時期	実施主体
地域の支え合い事業(例として高齢者宅除雪ボランティアや見守り活動)の継続と若者世代の参加促進により、事業を通じて地域コミュニティの強化を図ります。	令和3～12年度	地区長会

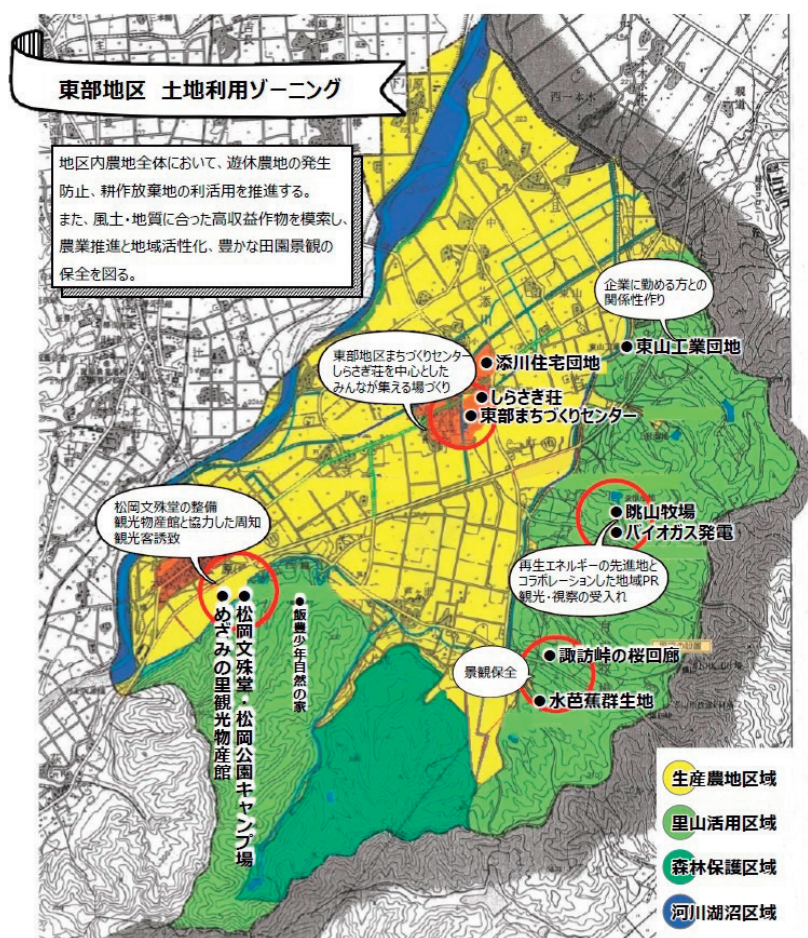
アクションプランの概要	2. 農業・観光・産業による地域経済振興と地域活性化	
<p>(詳細) 東部地区に豊富にある農業・観光・産業(企業)といった資源を連携・活用し、地域経済の振興と地域の活性化を図るため、検討組織と計画づくりを行います。</p> <p>休耕地を活用した果樹栽培など、地域性にあった付加価値の高い農業を推進することで、耕作放棄地など農地の荒廃を防ぎ、豊かな田園景観の維持管理に努めます。</p> <p>また、地域資源を活用したコミュニティビジネスの可能性について検討し、参加者の生きがいづくりなどの高齢者福祉、地域における雇用創出や経済振興につなげます。</p>		
アクションプラン①	実施時期	実施主体
<p>農業・観光・産業(企業)の連携・活用のための検討組織の立ち上げと計画づくり</p>	令和3～5年度	地区長会
アクションプラン②	実施時期	実施主体
<p>風土と地質に合った高収益作物を模索          風土と地質に合った高収益作物の選定(農産物として、加工品として、またはその両方で高収益)          栽培方法、加工及び販売の調査研修(例：ブドウ栽培とワイン作り)          試験栽培実施          計画賛同者による試験栽培開始          地域資源の活用とブランド化を目指してバイオガス発電の副産物である液肥を利用          加工品づくり          加工品づくり。場合によっては委託により実施          試験販売          作付け面積の拡大          新規作付け農家と新規就農者への支援体制を構築する。          休耕農地と遊休農地を活用し栽培面積を拡大する。          地域に収益をもたらすと共に、豊かな田園景観の保全を図る。</p>	令和5～12年度	地区長会
アクションプラン③	実施時期	実施主体
<p>耕作放棄地を利用し、地域住民参加型の作物作りと、収穫した作物を利用した地域の交流会を実施する。</p>	令和3～12年度	地区長会
アクションプランの概要	3. 地域の文化振興と発信	
<p>(詳細) 水芭蕉や桜回廊、松岡文殊堂、獅子舞などの豊かな地域資源を継承し、地域住民の連携と自主的な活動の展開により、地域の伝統文化を守り、景観の保全や地域コミュニティの活性化を推進します。また、自分たちの地域を深く知ること、地域の魅力や資源を再認識し、愛郷心を醸成します。</p>		
アクションプラン①	実施時期	実施主体
<p>観光物産館と共に、由緒ある松岡文殊堂のPR、参拝者増加とそれによる物産館来客数増加の相乗効果について検討します。例として、物産館に松岡文殊堂の由来等の看板を設置することで、松岡文殊堂の認知度を向上させると共に、物産館からの観光客の流れを生むような仕組みを構築します。また、クラウドファンディング等で資金を募り、物産館から松岡文殊堂への参拝ルートを整備、文殊堂改修を実施し、かつての隆盛を再興します。</p> <p>また、利用者マナーを徹底した上で松岡公園キャンプ場の活用を促進し、町外客を呼び込めるレジャーポイントとします。</p>	令和3～7年度	地区長会

アクションプラン②	実施時期	実施主体
添川温泉祭りのテーマ付け・意義を再考し、例として東部地区内の神社とのコラボレーションによる獅子舞の競演、竿灯の復活など、地域外からも集客を生む祭りを地域全体で作り上げるにより、地域の活力を再興します。	令和3～5年度	地区長会 添川祭実行委員会
アクションプラン③	実施時期	実施主体
東部地区の地域資源、住環境、イベント等を発信することのできる場をSNS等で立ち上げ、継続的な情報発信を行います。	令和3～5年度	地区長会

## 【土地利用の考え方】

(かつて作成した「東部土地利用計画」(第3次総合計画)を基本とした田園景観の保全を核とした土地利用計画を、住民の合意を形成しながら進める。)

## 【土地利用ゾーニング】



## 手ノ子地区

## ～ 私たちの暮らしとふるさとに魅力と誇りを創る ～

## 【2030年の将来像】

- ① 「小さな拠点」が機能して住みやすい「手ノ子」になる。
- ② 「手ノ子はとってもいいところ」という人が多くなる。
- ③ 「手ノ子牛」を提供する店が手ノ子にできる。
- ④ 手ノ子に人が増える。
- ⑤ 雪室を利用して高収益の農業ができる。
- ⑥ 部会活動がさらに充実している。



## 【地区の概要データ】

(令和2年4月1日時点)

人口 男228・女245 計473 世帯数168 集落数6 高齢化率42%

## 【現状と課題】

1. 最盛期には280戸あった世帯数が現在は170戸弱に減少した。高齢者世帯が多く、今後、世帯数減少が加速的に進むのではないかと懸念している。空き家対策と土地利活用推進が喫緊の課題。
2. 人口減、世帯数減に伴って、集落の組織と機能の劣化が懸念される。これを立て直す必要がある。有効な方法と思われるのが、小さな拠点整備と集落ネットワーク圏づくりだ。第一歩を踏み出したい。
3. 豪雪地であることから、冬期間の暗い雰囲気や雪始末の苦勞が多いなど、手ノ子に対するマイナスイメージをもっている人が多い。「雪」が有益な資源であることや「雪」が苦痛にならない住環境づくりなどの具体的な事例を提示し、手ノ子を安心して、誇りをもって暮らせる地域にする必要がある。
4. 子どもが少ない。主な理由は二つ、一つは若者の流出。もう一つは結婚難。Uターン、Iターンが進む環境づくりと若い男女の出会いづくり作戦が必要だ。
5. 近い将来、新潟山形南部連絡道路(新山道路)が整備される。米坂線開通と宇津トンネル開通が地域衰退の引き金になった手ノ子地区にとって新山道路は、三度目の地域衰退の原因になるのでは、と心配する。それを乗り越えるインフラ整備など地域振興策が求められる。
6. 里山が放置されていることから里山の樹木が住宅の間際にまで侵入している。里山荒廃が住環境悪化の原因になっている。景観を創る取り組みに加え、魅力ある住環境づくりも欠かせない施策だ。
7. 越後米沢街道の重要な宿場であった歴史の息遣いが、今もなお残っている。下田通りや落合通りに強く残っている。これを大切に歴史の息遣いが分かる手ノ子の街づくりを進めたい。
8. 国などから高い評価を受け、地域づくり大賞・総務大臣賞を受賞した、当協議会部会などの里づくり活動だが、ここに来て、これまでを再点検する時期に来たように思う。活動がマンネリ化していないか、という視点も欠かせないが、加えて、「地域の活性化」にどう寄与していくかという視点が特に必要だ。

## 【地区の資源・宝物】

- ① 手ノ子の(宿場町、農村としての)歴史と文化
- ② 手ノ子の集落(通り)とその周辺(田園、里山)の景観
- ③ 手ノ子区協議会(里づくり推進委員会・部会)の活動の蓄積

## 【地区の将来像を実現するための重点事業】

事業概要	地区の役割	行政の役割
他の地区と連携した「小さな拠点づくり・集落ネットワークプロジェクト」の立ち上げと整備	他地区と連携したプロジェクトチームの結成	まちづくりセンターの支援
中山間地域の住環境改善と地域景観整備	他地区と連携したプロジェクトチームの結成	まちづくりセンターの支援
手ノ子への魅力ある移住定住促進	委員会の設置と計画づくり	—
雪室整備に向けた組織づくり	他地区と連携したプロジェクトチームの結成	担当課(情報提供など支援)
「手ノ子牛」を手ノ子で提供する環境整備	プロジェクトチームの結成	
4部会での5つの活動の推進と発展 (ヒメサユリの保存・繁殖・観光資源に活用する条件整備、雁沢川ホテルの里整備、八幡山桜の森整備、地域家庭料理提供事業、宇津峠と手ノ子宿場の歴史と文化発掘)	部会活動の実施	—

## 【アクションプラン】

アクションプランのテーマ・内容	実施時期	実施主体
1. 「小さな拠点」と「集落ネットワーク圏」整備	令和3～12年度	手ノ子区協議会・連携地区
地域の活力と地域住民の意欲の向上、組織力の強化を図るため、当地域に「集落ネットワーク圏」と「小さな拠点」の仕組みと機能を導入し、地域再生を図りたい。基礎集落を温存しながら、中心集落と各集落をネットワーク化し、失われた機能を補い合い、更に中心集落に多様な機能を育成し、集中させる。そのためには地区として、まず、プロジェクトチームを編成して、集落ネットワークの具体的な姿と小さな拠点に必要な機能などを取りまとめ、地区でできることを実践し、その上で、国、町の支援を導入していく。		
2. 中山間地域の住環境改善と地域景観整備	令和3～12年度	手ノ子区協議会・連携地区
①山際にある住宅地では里山が荒廃した(手入れが行き届かなくなった)ことによって樹木が宅地まで押し迫っている。生活(住)環境の悪化を改善するため、宅地周り周辺の里山整備を行う。 ②魅力ある地域の景観を創るため里山整備を行う。		
3. 定住促進住宅(子育て支援住宅)整備の実現に向けて	令和3～12年度	手ノ子区協議会・飯豊町
当地域の喫緊の課題である小学校の統廃合問題や若者の流出、結婚難による地域衰退を解決するため、区協議会は、Uターン者、Iターン者などにとって魅力ある受け皿となるよう空き家の利活用や中古住宅リフォーム等、住みよい環境づくりを図っていきたい。また、人口増・子ども増のため、町に対し、定住促進住宅(子育て支援住宅)の整備を継続して要請していく。		
4. 雪室整備	令和3～12年度	手ノ子区協議会・連携地区・飯豊町
多雪地である当地域にとって、雪のマイナスイメージを払拭するには、雪をエネルギーとして利用する「雪室」が必要である。冷房コストの極めて低い「雪室」の導入により、保管室ごとに温度・湿度管理、市場動向を見ながらの出荷管理が可能になり、農業者の高収益につながっていく。将来、地域高規格道路が整備されれば、生産者⇒雪室⇒消費地と、太いパイプがつくられることになる。そのためには、当面、農業者や農業関係者との懇談から始めていきたい。その上で、「雪室」整備に対し、国、町の支援を要請していく。		

5. 「手ノ子牛」を手ノ子で提供する環境整備	令和3～12年度	手ノ子区協議会
米沢牛のルーツは手ノ子。手ノ子はかつて「手ノ子牛」の集散地であった。その手ノ子で「手ノ子牛」を提供する店をつくる取り組みを行う。		
6. 宇津峠(越後米沢街道)と手ノ子宿場の歴史と文化発掘	令和3～12年度	手ノ子区協議会(宇津峠部会)
宇津峠(越後米沢街道)と手ノ子宿場の歴史と文化は当地域の貴重な財産。新たな発掘と次代への継承に取り組むほか、「手ノ子」を潤いのある街並みにするためにこの財産を生かしていく。		
7. ヒメサユリの保護・育成事業	令和3～12年度	手ノ子スキー場活性化組合・手ノ子区協議会(スキー場部会)・飯豊町
手ノ子スキー場ゲレンデに自生しているヒメサユリ(環境省レッドデータ準絶滅危惧種)の保護と繁殖に取り組む。		
8. 雁沢川ホテルの里整備	令和3～12年度	手ノ子区協議会(雁沢部会)
雁沢を維持管理する傍ら「ホテルの里づくり」を取り組んできた。今後は、ホテル観賞イベントなどソフト事業を導入するとともに、地域全体を「ホテルの里」にする取り組みを行う。		
9. 八幡山桜の森整備	令和3～12年度	手ノ子区協議会(さんさん部会)
14haの元採草地にサクラなど花木を植栽して、八幡山が地域住民のよりどころとなるよう、里山づくりを継続するとともに、今後はさらに、観光客誘客のためにイベントなどを展開していく。		
10. 地域家庭料理提供事業	令和3～12年度	手ノ子区協議会(さんさん部会)
地域に昔からある郷土料理をレシピ化して次の時代に継承する取り組みを行ってきた。レシピ化したデータを基に郷土料理として普及するとともに商品化を目指す。		

**【地区間連携事業】**

事業概要	連携地区	当該地区の役割
他の地区と連携した「小さな拠点づくり・集落ネットワークプロジェクト」の立ち上げと整備	手ノ子地区、高峰地区、状況によっては中津川地区	他地区と連携したプロジェクトチームを結成
中山間地域の住環境改善と地域景観整備	手ノ子地区、高峰地区	他地区と連携したプロジェクトチームを結成
雪室整備に向けた組織づくり	全域	他地区と連携したプロジェクトチームを結成

**【土地利用の基本方針】**

手ノ子は白川沿いに発達した河岸段丘の要に位置しています。かつてイザベラバードが「東洋のアルカディア」と賞讃した美しい田園を見渡すことができます。宿場町として栄えた手ノ子はその面影を残しているものの、地域全体が、人口減少、産業の衰退が進み、土地利用の荒廃が現われはじめました。さらに、新山道路の開通は、手ノ子に限っては、これらに拍車をかけるのではないかと心配されます。

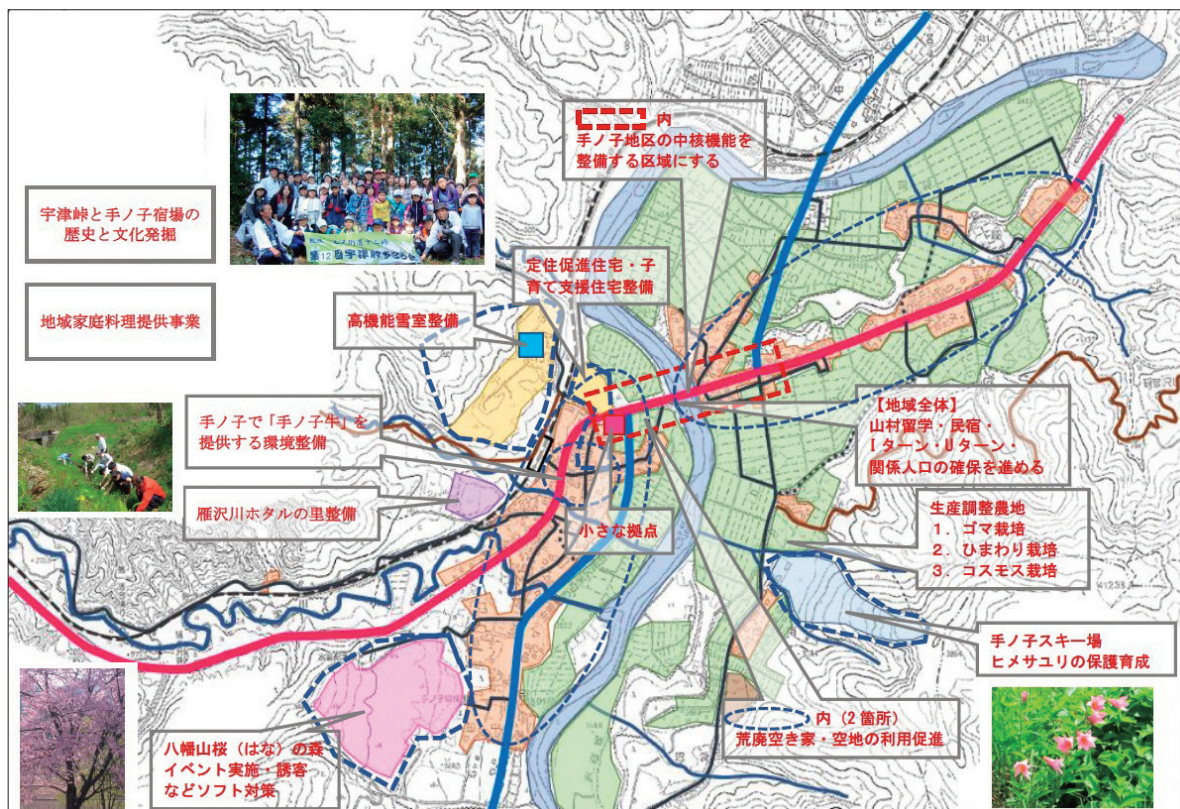
そのような中で、小さな街を宿場の面影を残した街並みに再生することができるのではないかと考えております。また周囲の水田、畑地、森林(里山)は、その穏やかな景観を保全、修景し、心の



ふるさと、レクリエーションの場としての活用が期待されます。

一方で、荒廃空き家、荒廃宅地が目立ちはじめた集落環境を整備し、優れた住環境に再生する取り組みや「雪」に悩まされる居住環境の改善に取り組むことも忘れてはなりません。その再生と魅力増進に取り組みます。加えて、手ノ子での生活の利便性、快適性を確保するため、「小さな拠点づくり」を土地利用計画に位置付け、高峰地区とも連携し、行政と協働してその構想を進めていきます。

### 【土地利用ゾーニング】



## 高峰地区

### 心ゆたかな未来へ～ゆいの里 たかみね～

#### 【2030年の将来像】

住民相互に助け合いの気持ちを持って「ゆいの里」を継承し、一人ひとりが生き生きと笑顔で輝く高峰の実現



#### 【地区の概要データ】

(令和2年4月1日時点)

人口 男158・女148 計306 世帯数106 集落数5 高齢化率43%

#### 【現状と課題】

- ・ 少子高齢化が進行
- ・ 高齢者のみ世帯の増加
- ・ 空き家の増加
- ・ 倒壊家屋の増加
- ・ 商店もなく買い物難民が増える
- ・ 未婚者が多く子供がいない
- ・ 少子化で学校もなくなる
- ・ 農業者の減少で耕作放棄地が増加しそう
- ・ 人口減で集落が維持できない
- ・ 豪雪地帯である

#### 【地区の資源・宝物】

- ・ 白川清流の豊かな自然
- ・ そば畑とそば工房
- ・ ゆいの里プロジェクトで地域のまとまり
- ・ 山菜等豊かな農作物
- ・ 白川ダムの景観
- ・ 豊富な雪

## 【地区の将来像を実現するための重点事業】

事業概要	第4次総合計画との関係	地区の役割	行政の役割	場所
①白川沿いの環境整備と白川ダム利活用 (SDGs: 8、14、15、17)	継続・発展	周辺環境整備の町への提案 河川周囲の支障木伐採等の維持管理・保全 イベント開催、PR活動、ダムの調査 ワカサギの養殖技術研修・習得	西高峰橋架け替え 河川周囲の支障木伐採等の維持管理・保全 国・県への積極的なアプローチ ダム利用の交渉 許可申請の仲介	新西高峰橋周囲とダム湖
②地区間連携による蛍の棲む里づくり (SDGs: 4、15、17)	新規	場所の選定、生息地調査 他の地区と協力して蛍の養殖	地区間連携の仲介 先進地から講師を紹介 学校の授業等で紹介・活用	未定
③土地の有効利用による地域の活性化 (SDGs: 2、9、12)	新規・継続	場所の選定 ネット活用によるオーナー募集 棚田の再生 山菜の生産・加工技術の習得	農業体験希望者のリサーチ 資金等の支援 生産・加工技術指導者の紹介	高峰地区全体
④高齢者支援による安心・安全な地域づくり (SDGs: 3、10)	新規・継続	地区食改の協力を継続 依頼 送迎支援の組織づくり	資金等の支援	高峰地区
⑤克雪、利雪の推進 (SDGs: 12)	新規・継続	PR活動	PR活動 資金等の支援	多目的集会所周辺

## 【アクションプラン】

アクションプランのテーマ・内容	第4次総合計画との関係	実施時期	実施主体
1. 清流白川沿いの整備	継続	令和3～12年度	町・高峰地区協議会
人を呼び込むため、今ある物を利用した白川清流沿いの美化整備を進める。(支障木伐採) 河川敷に広場の検討 高峰そば工房付近の整備をし、いずれは散策ロード、サイクリングロードを作り、高峰地区を回れるようにしたい。(プランニングをし、2km、4kmと徐々に進めていく) その周囲には水仙ロード、桜の花見ができる場所作り、藤の花が見える環境づくりを進めていく。			
2. 白川ダム の 利活用	新規	令和3～12年度	町、白川ダム 高峰地区協議会
ダムを利用したイベントの開催。中津川地区との連携も模索。 春～夏：水没林の遊覧船(ボート) 冬：可能であるならワカサギ釣り(ワカサギの養殖・放流)			
3. 蛍の棲む里づくり	新規	令和3～12年度	高峰地区協議会
蛍の棲む場所を調査し、最適地を確保する。蛍の繁殖を技術の習得と環境保全PR。			
4. 田畑の利活用	新規	令和3～12年度	高峰地区協議会
田畑のオーナー制度や体験農業などが出来ないかを情報収集し、地区に合った企画立案を実施していく。			
5. 山菜の生産と加工、わらび園の開設	継続	令和3～12年度	高峰地区協議会
わらび園を造成し観光客を誘致したい。(候補地の調査・検討) わらび加工品の製造販売を検討していく。			
6. 高齢者支援の組織づくり	新規・継続	令和3～12年度	高峰地区協議会 食改の皆さん
現在いきいきサロンを実施しているが、参加者が少ないため送迎をする組織を立ち上げて、多くの人が参加しやすくし、「元気で長生き」の地域づくりを目指したい。また食改の方々の協力で昼食を提供してもらいながら楽しい憩いの場を作りたい。			
7. 克雪・利雪の推進	新規・継続	令和3～12年度	高峰地区協議会
小野川温泉の《“かまくら”でラーメンを食べる》催しを参考にして、“かまくらでそばを食べてもらう”企画を検討したい。 まずはかまくら造りや誘客の手法を学び県外からも客を呼び込みたい。そして雪で遊んでもらうスノーモービル体験などもしてもらう。			
8. 地域住民の交流支援	新規	令和3～12年度	町・高峰地区協議会
地区行事等に参加を促すため、ポイント制度を導入し、参加意欲を高めていく。 伝承文化を守りながら、住民全員参加の地域づくりを目指していく。 未婚者交流支援としては、地区の行事や協議会の行事、町の行事に参加してもらう声掛けをし、出会いの場を提供していく。(各行事について随時情報収集と発信をしていく)			

**【地区間連携事業】**

事業概要	連携地区	当該地区の役割
小さな拠点づくり	手ノ子地区	
白川沿いの整備とダムの利活用	手ノ子地区、中津川地区	連携事業の開催
蛭の棲む里づくり	町内で蛭に関する事業を展開している地区	先進地の視察・研修技術習得

**【土地利用の考え方】**

高峰地区は南北に長く、南に白川ダムがあり、地区の北の置賜白川沿い（下流域）に集落が散在する中山間地域であり、後継者不足の農林業に不安を抱え、少子高齢化が進み、地域環境の悪化も懸念されます。

また地域の集落機能が低下し、組織の再編も検討しなければならない状況下にあるのも現実です。

これらを踏まえた上で、地域の活性化を図るような計画を立てつつ、地域資源を生かし立地条件をも生かした、新たな地域づくりを進めることにより、誰もが安心・安全に暮らし続けられる「ゆいの里たかみね」を作っていければと思います。

そのためには今までと同じでは難しい面もあるため、先代からの知恵を生かしながら、新たな発想と新たな力で、祭りや行事、生活様式など継承できるもの、記録で残すものを選び分けながら地域に残していきたいものです。

農地の荒廃を止める手立てとしての基盤整備事業も検討しながら、将来へ残していける地域づくりも検討してまいります。地域の皆さんの経験と知恵を結集して達成しましょう。

## 中津川地区

### ～ここに暮らすしあわせ・いいもんだ中津川～

#### 【2030年の将来像】

中津川地区は、本物の豊かな暮らしができる地域として、自給自足・自立できる地区となること目指します。そのため、豊富な地域資源を生み出す人と自然（山、里、川、雪）を生かしながら、自給自立圏構想に基づく「中津川村民協同組合（仮）」または「中津川むらづくり会社（仮）」の設立を目指します。



#### 【地区の概要データ】

（令和2年4月1日時点）

人口 男119・女119 計238 世帯数107 集落数9 高齢化率61%

#### 【現状と課題】

- ・人口減少、少子高齢化が顕著であり、単身高齢及び高齢者のみの世帯が多い。高齢者は運転免許返納で動けない。共同作業にも出られない人が増加、集落機能の維持も困難になってきている。
- ・地区内に職場が少なく、特に若者の就きたい職場がない。娯乐的施設も少ない。
- ・農業、イベント開催、伝統技術継承などで、後継者・担い手不足、人材不足が見られる。
- ・子育て環境が悪化（幼児保育の場がない）、学童生徒の通勤環境も厳しくなっている。
- ・野生動物（イノシシ、サル、クマ等）の被害が増加しており、いかに共存を図るかが課題である。
- ・山林等の豊かな資源を生かしてきていないところがある。
- ・主要道路が1本であり、菅沼峠の利便性が悪い。

#### 【地区の資源・宝物】

##### 【宝物】

- ・景観（飯豊山、川・清流、森林、水没林、ダイヤモンドダスト）
- ・四季を感じられる、太古からの自然
- ・空気、おいしい水、雪、イワナなどの川魚、山菜、山野草、野鳥、熊
- ・化石や遺跡（上谷地遺跡）、穴堰、ジオサイト

##### 【次代に残したいもの】

- ・菅細工（花笠作り）など昔から受け継がれている‘技’
- ・自然を生かした生活、結、物事を決めるときのまとまり、人を受け入れる「中津川気質」
- ・資源である雪、雪室
- ・中津川雪祭り、SNOWえっぐフェスティバル
- ・岩倉神社など各地区の神社、草木塔
- ・郷土料理（のりもち、くるみ南蛮みそ等）、中津川の昔話

## 【地区の将来像を実現するための重点事業】

事業概要	第4次総合計画との関係	地区の役割	行政の役割	場所
中津川総合産業法人の設立事業 （「中津川村民協同組合（仮）」または「中津川むらづくり会社（仮）」を設立する。） （SDGs：3、4、8、9、11）	新規	設立に向けた検討、準備体制	助言	地区全体
主要地方道米沢飯豊線菅沼峠の整備事業 （中津川地区の生命線道路の複数化） （SDGs：3、8、9、11）	新規	請願運動	県への請願事業の実施	
「中津川の未来」創造事業 （中津川の環境の維持と最大限の活用をめざす総合計画の策定と、担い手（組織）育成方策を検討する。満足度・幸福度の最大化めざす。） （SDGs：3、4、8、9、11、13、16、17）	発展	検討	助言、指導	地区全体

## 【アクションプラン】

【重点】重点アクション 【可能】可能性をさぐるアクション

アクションプランのテーマ・内容	第4次総合計画との関係	実施時期	実施主体
1. 産業の育成（農業、林業、観光、特産品開発）	継続一部新規	令和3～12年度	むらづくり協議会 生産組合、中津川地区 財産区
<b>【重点】</b> ① 総合産業法人「中津川村民協同組合（仮）」を設立する。 ② 財産区有林等の有効活用（木材、山菜、観光）について見直す。 ③ 大学生の実習受け入れを行う。 ④ 山菜などを活用した特産品（中津川ブランド）を作る。 <b>【可能】</b> ① 地区内産物（山菜、農産物、木材）の増産と加工・販売事業の拡大・発展を図る。 ② スマート農業、スマート林業の導入に向けた体制作りを図る。 ③ 観光客増加に向けた取り組み（中津川絶景カレンダー制作、SNS発信等）を構築する。 ④ 中津川ブランドのPR事業を行う。			
2. 教育や子育て環境の整備	新規	令和3～12年度	むらづくり協議会
<b>【重点】</b> ① 年齢を超え支えあう仕組み、子供と高齢者との交流促進の仕組み・プログラムづくり ⇒ 「中津川寺子屋プログラム」をつくる。 <b>【可能】</b> ① 地区内に保育できる体制を作る。⇒ 「森の保育・幼稚園構想」 ② 地域内で子供たちが、地域体験できる体制を作る。 ③ 子供が集まれる施設を設置する。			

3. 居住環境の改善と集落機能の維持	新規	令和3～12年度	むらづくり協議会
<b>【重点】</b> ① 自立、共助の環境を整理し、地区民の満足度・幸福度のアップを図る。 ② 各種の共同作業等に地区外からの協力者を増やし、集落機能の維持を図る。 <b>【可能】</b> ① 高齢者の集える環境(ゆうゆうクラブ等)の充実(男性参加など)を図る。 ② 高齢者の趣味を活用した作品の発表の場や販売環境を整備する。 ③ 若者が集える場所(カフェ、居酒屋、カラオケ等)を整備する。 ④ 地元産の資源で住居、食の自給が図られるモデルの活性や実践をする。			
4. 地区外者・団体と連携した地域振興	新規	令和3～12年度	むらづくり協議会
<b>【重点】</b> ① 地区内の環境整備(県道・町道の草刈り、堰払いなど)の継続化に向け取り組む。 ② 中津川地区の元住民などとの関係人口増加の仕組みづくりを行う。 <b>【可能】</b> ① 「源流の森」と連携した森林活用を推進する。 ② 大学との連携による雪活用の研究や地域デザインの見直しを行う。 ③ 交流人口やインバウンドの対応ができる受け入れ態勢の構築を図る。			
5. 伝統の維持や地域活性化を図る方策	新規	令和3～12年度	むらづくり協議会
<b>【重点】</b> ① 中津川の技(伝統工芸、山菜栽培等、劇団)を学ぶ研修会を開催(一部学校開設)する。 ② マタギ文化の復活に向けた人材育成を行う(狩猟免許の取得、実践指導)。 <b>【可能】</b> ① 昔ながらの写真や資料、農具などの収集と保存を行う。 ② 森林資源を活用したイベント開催やアウトドア指導人材の育成を行う。			
6. 移住環境の整備	新規	令和3～12年度	むらづくり協議会 地区公民館
<b>【重点】</b> ① 関係人口対策と移住後の定着に係る課題(どのような層をねらうか、住宅と仕事、子育て環境など)を検討する。 ② 「移住しやすい中津川」に向けた意識改革・社会づくりを行う。 <b>【可能】</b> ① 移住しやすい中津川地区移住相談所(窓口：地区公民館)の機能を強化する。 ② 地区内空き家の確保と、情報提供を強化する。 ③ SNS等を活用した「移住地・中津川」の発信を行う。			
7. 人材の育成・確保	継続	令和3～12年度	むらづくり協議会
<b>【重点】</b> ① 中津川の総合的なむらづくりを担う人材登用と育成を行う。 <b>【可能】</b> ① 地区内人材育成のための事業(派遣研修、研修会)を継続実施する。 ② 地区外からの人材を積極的に求める。 ③ ベンチャー企業等を誘致し、収益やノウハウなどを地域に還元を図る。			

**【地区間連携事業】**

事業概要	連携地区	当該地区の役割
水仙ロードの整備・拡充	手ノ子地区、高峰地区	連携して整備事業等を開催



## 【地区の土地利用の基本的な考え方】

中津川地区は、町中心部から20km離れ、主要地方道路米沢飯豊線（白川ダム道路、菅沼峠）と、冬季閉鎖となるが林道飯豊桧枝岐線、九才峠が地区外へ通じる道路であり、玄関となっています。山間地・豪雪地特有の共同共存の豊かな文化があるものの、災害等で孤立化も懸念される地域となっています。

山間地特有の気候と豊富な雪や飯豊連峰を水源とする清流は、豊かな農林水産物を生み出し、農業と林業、そして観光業へと発展してまいりました。

近年、少子高齢化が進み、地区の産業（農業、林業）の担い手が減少する中で、山林や農地の利用について、維持し守るためには、ゾーニングが必要となってきました。また、伝統ある地域資源を観光資源として生かす取り組みも重要であり、ゾーン・拠点づくりも必要です。

将来にわたり、中津川地域の暮らしを守り、自然環境を守るために、行政と協同でしっかりした土地利用計画を策定し、活動の具体化を図っていきます。

## 【土地利用ゾーニング】

